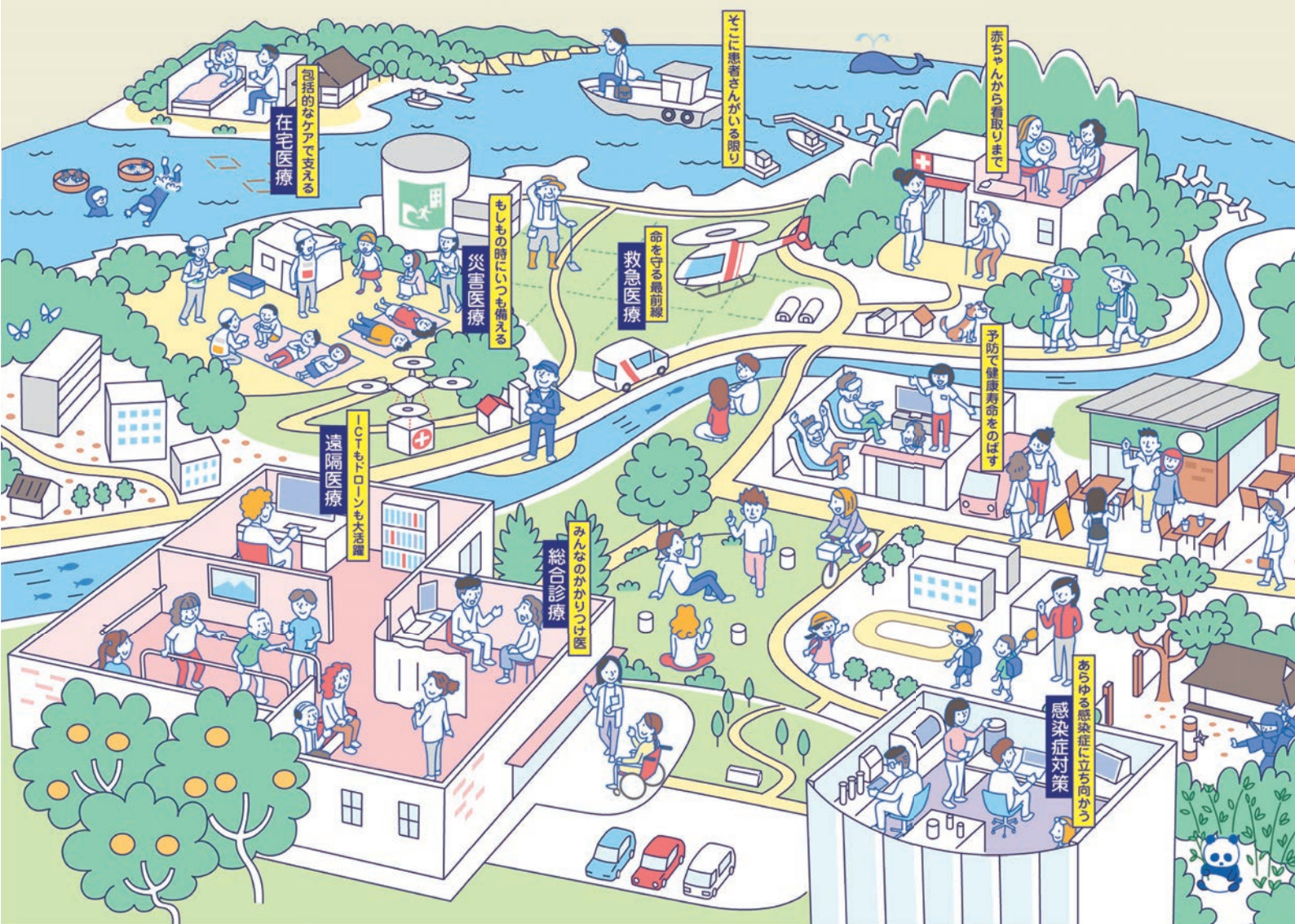




黒潮医療人養成プロジェクト

令和7年度 事業報告書

(令和7年4月～令和8年3月)





| | | |
|------------|--------------------------------|----|
| I | 黒潮医療人養成プロジェクト事業概要 | 2 |
| | 黒潮医療人養成プロジェクトとは? | 2 |
| | 3 大学の教育プログラム | 4 |
| | 3 大学の教育プログラムの実施概況（令和7年度） | 7 |
| II | 事業実施・評価の体制 | 10 |
| | 1. 事業実施体制 | 10 |
| | 2. 事業評価体制 | 14 |
| | 3. 文部科学省による中間評価について | 15 |
| III | 事業実施状況報告 | 18 |
| | 1. 教育プログラム | 18 |
| | ① 高知大学 | 18 |
| | ② 和歌山県立医科大学 | 24 |
| | ③ 三重大学 | 28 |
| | 2. 大学間連携事業 | 34 |
| | ① e-learning | 34 |
| | ② 合同シンポジウム | 37 |
| | ③ 学生相互派遣・交流 | 41 |
| | ④ サイトビジット | 45 |
| | 3. 地域志向性アンケート調査 | 47 |
| | ① 研究計画書 | 47 |
| | ② 令和7年度調査結果 | 48 |
| | ③ 経年比較 | 49 |
| | 4. 広報活動 | 55 |

I

黒潮医療人養成プロジェクト 事業概要



3大学間の学びの共有で、質の高い教育を実現

大学間相互交流

本プロジェクトでは、3大学の学生相互交流を積極的に推進しています。

長期滞在型クリニカルクラークシップ (LIC) では、令和5～7年度に3大学計37名の学生が、大学間の学生相互派遣を通じて県外の地域拠点病院で実習を行いました。また、アクティブラーニングコースでは、3大学の学生による合同実習や学会への合同参加を実施しています。

異なる大学との交流は、学生に新たな学びや刺激をもたらすだけでなく、教員にとっても各大学の取組を知り、教育の工夫につなげるきっかけとなっています。



長期滞在型
クリニカル
クラークシ
ップ (LIC)



LICでの学生相互派遣交流:
(上) 和医大生と高知大生と一緒にカンファレンスに参加 (高知県立あき総合病院)。
(下) 高知大生が三重県で実習 (三重県立志摩病院、研修医先生とともに)。



地域
総合診療
コース

アクティブラーニングコース (地域総合診療コース) での3大学合同での学会参加:
日本プライマリ・ケア連合学会学術大会に3大学の学生計32名が参加し、うち学生11名が演題発表 (令和7年6月)。



災害救急
・感染症
コース

アクティブラーニングコース (災害救急・感染症コース) での3大学合同実習:

(左上) 高知大学での災害時対応研修に7大学の学生計42名 (高知・三重・和歌山・岡山・島根・鳥取・香川) が参加 (令和7年5月)。(右上) 高知県総合防災訓練に7大学の学生計112名が参加 (令和7年6月)。(左下) 三重大学医学部附属病院での大規模防災訓練に3大学の学生計148名 (三重大135名、高知大5名、和医大8名) が参加 (令和7年10月)。



LICにおける大学間学生相互派遣実績
(令和5～7年度):
計37名



LIC 期間中、3県の地域医療人材養成拠点病院と各大学をオンラインでつないでの合同振り返りを週1回実施。



期待される効果

地域医療に従事する医師の養成には、学生時代の地域医療に関する実習等を通じた地域医療マインドの涵養が重要であることが認識されています。本プロジェクトを通して、継続的な教育の質の向上とともに、地域に定着する医師の増加、分野横断的な診療科に進む医師の増加が期待されます。具体的には、地域ニーズの大きいものの十分に養成の進んでいない総合診療科、救急科、感染症科を選択する地域卒業者が増加することを達成目標の一つとしております。

本プロジェクトは地域卒学生のみならず、興味のある医学生は誰でも参加可能です。多くの学生を迎え、6年間を通じ多様な学びを提供し、地域ニーズに応える医療人の養成を目指します。



黒潮医療人養成プロジェクト
ウェブサイト
URL: <https://kuroshio-pjt.com/>



Instagram
ID: kuroshio_pj



黒潮医療人養成プロジェクト

I. 事業概要

■ 3 大学の教育プログラム

① 体験実習

低学年から地域医療人材養成拠点病院や地域に赴き、現場の医療を体験したり、地域診断等のプログラムを通して、地域のニーズを体験します。

| 大学名 | 対象学年 日程 | 人数 (年次) | 内 容 |
|---------------|----------------|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高知大学 | 1年次 2月/8日間 | 20人 | <ul style="list-style-type: none"> 大学病院での実習「臨床体験実習Ⅰ」「臨床体験実習Ⅱ」「臨床体験実習Ⅲ」を、地域医療人材養成拠点病院でも選択可能とする |
| | 2年次 9月/8日間 | 20人 | <ul style="list-style-type: none"> 各病院に在籍する地域卒業医師（臨床研修医、専攻医）と学生がペアとなり、マンツーマンで直接指導を受ける 救急受診、入退院支援、在宅医療など地域ニーズを理解できる内容を学ぶ |
| | 3年次 2月/8日間 | 20人 | <ul style="list-style-type: none"> ワークショップや地域踏破など、病院外の実習プログラムも含む 全学生を対象とするが、希望者多数の場合は地域卒学生を優先する |
| 和歌山県立 医科大学 | 2年次 10月/2日間 | 6人 | <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の一環である附属病院での病棟実習Ⅰ、病棟実習Ⅱを地域医療人材養成拠点病院等でも実施可能とする 在籍する地域卒業医師とペアとなり直接指導を受ける 地域卒学生が主であるが一般卒学生も選択可とする |
| | 3年次 2月/2日間 | 6人 | <ul style="list-style-type: none"> 地域医療におけるコメディカルの役割、チーム医療についての理解を深め、医療の専門職としての役割の自覚と責任を感じる機会とし、モラル・人間性も身につける |
| 三重大学 | 1・2年次 通年 | 205人 | <ul style="list-style-type: none"> 7～8名のグループにわかれ、各グループが県内全29市町村のうちの1市町村に2年間継続して関わる 1年次は地域調査・地域診断をおこない、2年次には地域診断の結果に基づいて地域貢献活動を実施する 全体講義、自己学習、グループ学習（教員・市町村担当者からの指導を含む）、実習により構成する 看護学科との合同授業 |

2 アクティブラーニングコース

複数年次にわたる能動的な調査・研究活動を通じ、地域課題をより高いレベルで理解します。

| 大学名 | コース名 | 対象学年 日程 | 人数 (年次) | 内 容 |
|---------------|-----------------|------------------------------------------|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高知大学 | 地域総合 診療コース | 2年次～ 4年次 通年 半日× 2回/週 | 5人 | <ul style="list-style-type: none"> 先端医療学推進センター「地域総合診療・臨床疫学研究班」所属 臨床現場での経験を通して、地域医療課題を抽出し、臨床疫学研究に取り組む 3年間で1回以上の学会発表もしくは論文執筆をおこなう |
| | 医療DX コース | | 5人 | <ul style="list-style-type: none"> 先端医療学推進センター「医療DX・データヘルス研究班」所属 ICTを活用した遠隔医療、医療連携、多職種協働の現状について学習する EHR (Electronic Health Record)、PHR (Personal Health Record) を活用した地域支援について学習する 3年間で1回以上の学会発表もしくは論文執筆をおこなう |
| | 災害救急・ 感染症コース | | 10人 | <ul style="list-style-type: none"> 先端医療学推進センター「感染・災害救急医療研究班」所属 救護所設営等の救急医療災害訓練、津波避難タワー1泊体験実習、'98豪雨被災地見学研修などの災害実習を通して、避難所での感染症予防対策、感染症・災害医療の知識を習得する 3年間で1回以上の学会発表もしくは論文執筆をおこなう |
| 和歌山県立 医科大学 | 地域総合 診療コース | 1年次～ 5年次 5日間 または 10日間 | 5人 | <ul style="list-style-type: none"> 地域医療の課題についての事前学習として、アクティブラーニング(問題基盤型学習(PBL)、チーム基盤型学習法(TBL)、Case-based Discussion(CBD)等)、グループワーク、オンデマンド教材により集中的に習得する 学生の希望によりマッチングした地域拠点病院・保健所で実習 |
| | 災害救急・ 感染症コース | 3年次 | 10人 | <ul style="list-style-type: none"> 臨床医学系講義「救急医学」の中に、災害医療関連の講義1コマを組み込む 夏期休業中に課外実習3コマを実施する；①津波関連施設の見学・体験、②避難所の設置・運営・応急手当、③避難所に関わる予防医学(感染症を含めて) |
| 三重大学 | 地域総合 診療コース | 1年次～ 6年次 | 8人 | <ul style="list-style-type: none"> 新医学専攻コース(1～6年次)、研究室研修(3～4年次)の枠組みで総合診療医養成を目的として、研究活動と能動的学習を拡充したコース 4年次に学内での成果発表会で発表をおこなう 6年間で1回以上の学会発表もしくは論文執筆をおこなう |
| | 災害救急・ 感染症コース | 3年次～ 6年次 | 125人 | <ul style="list-style-type: none"> PBLチュートリアル教育(3～4年次)において新興感染症事例を通して学ぶ 感染症ユニット期間中に中部国際空港検疫施設での終日の実習(希望者20名) 臨床実習前集中講義において感染症疫学シリーズを設定する 全科ローテーション型臨床実習(4～5年次)・救急部ローテーションにおいて、感染症患者に対する救急対応をAR(Augmented reality 拡張現実)機器を活用して学習する |

3 長期滞在型クリニカルクラークシップ (LIC)

地域医療人材養成拠点病院で長期滞在型のクリニカルクラークシップをおこない、総合的な診療能力を身につけます。

| 大学名 | 対象学年 日程 | 人数 (年次) | 内 容 |
|---------------|-------------------------|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高知大学 | 6年次 4ヶ月間のうち 4週間以上 | 12人 | <ul style="list-style-type: none"> 総合診療、救急、感染症など地域ニーズに応えられる総合的な臨床能力を身につける 外来・救急での初期対応から、入院診療、退院調整など、一人の患者に継続的に関わる 救急、感染症などについて、オンラインでの指導、オンデマンド教材の視聴などにより学習する |
| 和歌山県立 医科大学 | 6年次 6ヶ月間のうち 3週間 | 25人 | <ul style="list-style-type: none"> 入退院支援～在宅療養までICTシステムを活用した多職種協働(情報共有、カンファレンス等)に参加する 大学病院・地域医療人材養成拠点病院との遠隔カンファレンス、地域医療人材拠点病院・診療所間のオンライン診療(Doctor to Doctor)、過疎地域の通院困難者を対象としたオンライン診療(Doctor to Patient with Nurse)などICTを活用した診療に参加、見学する |
| 三重大学 | 6年次 4ヶ月間のうち 4～5週間 | 4人 | <ul style="list-style-type: none"> 院内での実習のみならず院外においても健康増進活動などの地域活動に関わる |

4 合同シンポジウム

年に1回、3大学合同でオンラインシンポジウムを開催します。ハイブリッド形式での開催とし、現地参加する各大学の学生・教職員による事業成果の発表や、意見交換を通じて交流を深める場とします。また、行政、地域医療機関、高校生などにも広く参加を呼びかけ、本プロジェクトの理解を進めるとともに、地域志向性の高い医学生の入学を促す効果も期待されます。

3大学の教育プログラムの実施概況（令和7年度）

令和7年度は、3大学で延べ1,000名規模の学生が多様な教育プログラムに参加しました。

また、学生による学会発表や大学間交流も活発におこなわれ、学びの成果を学内外に発信する機会となりました。

各教育プログラムの参加実績（3大学合計）



体験実習
475名が参加



アクティブラーニングコース
457名が参加



長期滞在型臨床
クラークシップ（LIC）
50名が参加



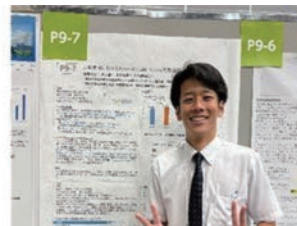
合同シンポジウム
学生79名が参加
（全体参加者201名）

学会発表

アクティブラーニングコースの学生による学会発表
計23演題（3大学合計）



地域総合診療コース
12演題

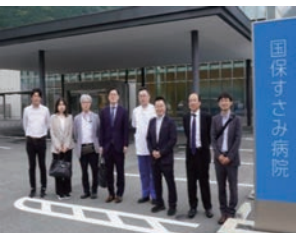


医療DXコース
6演題



災害救急・感染症コース
5演題

大学間交流



サイトビジット
和歌山・三重の拠点病院を訪問し、情報共有や意見交換をおこなったほか、他拠点との相互訪問や受入れも実施



感染症 Web 勉強会
3大学合同のオンライン勉強会を2回実施し、3県から延べ100名程度の学生・研修医等が参加



合同防災訓練@三重
附属病院大規模防災訓練に3大学の学生148名が参加



合同防災訓練@高知
高知県総合防災訓練に7大学の学生112名が参加（高知・三重・和歌山・岡山・島根・鳥取・香川）

II

事業実施・評価の体制



II. 事業実施・評価の体制

II 事業実施・評価の体制

1. 事業実施体制

各大学において、医学部長をリーダーとした実施体制を構築しています。各大学において事業の実務担当者、教務担当者、関連する講座の責任者、地域学生等からなる連携校事業推進委員会を年に2回以上開催し、事業の実施計画の策定、進捗状況の確認、プログラム評価、目標達成のベンチマークなどをおこないます。必要に応じて、地域医療人材養成拠点病院の担当者、行政関係者も委員に加えるものとします。事業の円滑な実施のために、実務を担当する教員および事務員を各1名配置します。

事業全体としては、各大学の医学部長、実務担当者からなる事業推進委員会を年1回開催し、大学間の調整の他、年間計画の策定、予算の執行状況の確認をおこないます。

■ 事業推進委員会

敬称略

| | 氏名 | 役職 |
|------|-----------------|----------------------------------------|
| 委員長 | 井上啓史 | 高知大学医学部長 |
| 副委員長 | 川股知之 | 和歌山県立医科大学医学部長 |
| | 平山雅浩 | 三重大学医学部長 |
| 委員 | 矢野有佳里 | 高知大学医学部 特任教授（高知地域医療支援センター） |
| | 阿波谷敏英 | 高知大学医学部家庭医療学講座教授 高知地域医療支援センター副センター長 |
| | 蒸野寿紀 | 和歌山県立医科大学地域医療支援センター長・教授 |
| | 村田顕也 | 和歌山県立医科大学教育研究開発センター長・教授 |
| | 西村有平 | 三重大学大学院医学系研究科統合薬理学分野教授 医学部教務委員長 |
| | 成田正明 | 三重大学大学院医学系研究科発生再生医学分野教授 |
| | 前田博教 | 高知県立あき総合病院院長 |
| 高橋宏和 | 高知県健康政策部医療政策課課長 | |

■ 令和7年度黒潮医療人養成プロジェクト事業推進委員会

日時：令和8年2月5日（木）17：00～18：00

開催方法：オンライン会議（zoom）

■ 高知大学連携校事業推進委員会

敬称略

| | 氏名 | 役職 |
|-------|--------|----------------------------------------------|
| 委員長 | 井上 啓史 | 高知大学医学部長 |
| 委員 | 矢野 有佳里 | 高知大学医学部 特任教授（高知地域医療支援センター） |
| | 藤田 博一 | 高知大学医学部附属医学教育創造センター長 |
| | 阿波谷 敏英 | 高知大学医学部家庭医療学講座教授 高知地域医療支援センター副センター長 |
| | 盛 實篤史 | 高知大学医学部附属病院総合診療部教授 |
| | 宮野 伊知郎 | 高知大学医学部医療学 / 予防医学・地域医療学分野(公衆衛生学)准教授 |
| | 西山 謹吾 | 高知大学医学部危機管理医療学講座特任教授 |
| | 宮内 雅人 | 高知大学医学部災害・救急医療学講座教授 |
| | 山岸 由佳 | 高知大学医学部臨床感染症学講座教授 |
| | 佐田 憲映 | 高知大学医学部臨床疫学講座特任教授 |
| | 的場 俊 | 高知県立あき総合病院総合内科部長 |
| | 川村 昌史 | 高知県立幡多けんみん病院副院長内科部長（総括） 研修管理センター長 |
| | 藤枝 幹也 | 高知地域医療支援センター長 高知大学医学部附属病院臨床研究教育・人材育成センター長 |
| | 藤本 新平 | 高知大学医学部医学科長 |
| | 関 安孝 | 高知大学医学部学務委員長 |
| | 梅原 陵一 | 高知大学医学部・病院事務部部長 |
| | 小島 佳奈 | 医学科4年生 |
| | 近森 大空 | 医学科3年生 |
| | 油野 颯希 | 医学科2年生 |
| 市原 楓大 | 医学科1年生 | |

II. 事業実施・評価の体制

■ 和歌山県立医科大学連携校事業推進委員会

敬称略

| | 氏 名 | 役 職 |
|---------|--------------|------------------------------|
| 委員長 | 川 股 知 之 | 和歌山県立医科大学医学部長 |
| 副委員長 | 村 田 顕 也 | 和歌山県立医科大学教育研究開発センター長・教授 |
| | 蒸 野 寿 紀 | 和歌山県立医科大学地域医療支援センター長・教授 |
| 委 員 | 中 村 有 貴 | 和歌山県立医科大学地域医療支援センター副センター長・助教 |
| | 本 林 秀 規 | 和歌山県立医科大学地域医療支援センター助教 |
| | 谷 本 貴 志 | 和歌山県立医科大学教育研究開発センター准教授 |
| | 森 めぐみ | 和歌山県立医科大学教育研究開発センター助教 |
| | 廣 西 昌 也 | 和歌山県立医科大学附属病院紀北分院内科教授 |
| | 井 上 茂 亮 | 和歌山県立医科大学救急・集中治療医学講座教授 |
| | 中 島 強 | 和歌山県立医科大学救急・集中治療医学講座講師 |
| | 小 泉 祐 介 | 和歌山県立医科大学臨床感染制御学講座教授 |
| | 貴 志 幸 生 | 和歌山県立医科大学事務局長 |
| | 三 住 晃 士 | 医学部6年生 |
| | 樋 上 和 真 | 医学部5年生 |
| | 坂 本 睦 美 | 医学部4年生 |
| | 万 谷 瑞 姫 | 医学部4年生 |
| | 駿 田 直 俊 | 橋本市民病院院長 |
| 山 本 修 司 | 国保すさみ病院院長 | |
| 中 紀 文 | 那智勝浦町立温泉病院院長 | |

■ 三重大学連携校事業推進委員会

敬称略

| | 氏名 | 役職 |
|-------|---------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 委員長 | 西村 有平 | 三重大学大学院医学系研究科統合薬理学分野教授 医学部教務委員長 医学・看護学教育センター副センター長 |
| 委員 | 平山 雅浩 | 三重大学医学部長、三重大学大学院医学系研究科小児科学分野教授 医学・看護学教育センター長 |
| | 松岡 真里 | 三重大学大学院医学系研究科小児看護学分野教授 看護学科教務委員長 |
| | 問山 裕二 | 三重大学大学院医学系研究科消化管・小児外科学分野教授 医学部附属病院副病院長（研究・倫理担当） |
| | 鈴木 圭 | 三重大学大学院医学系研究科救急集中治療医学分野教授 三重大学医学部附属病院高度救命救急・総合集中治療センター長 感染症内科科長 |
| | 山本 憲彦 | 三重大学医学部附属病院総合診療部長教授 |
| | 岸和田 昌之 | 三重大学医学部附属病院災害対策推進・教育センター長准教授 |
| | 成田 正明 | 三重大学大学院医学系研究科発生再生医学分野教授 |
| | 吉山 繁幸 | 三重大学大学院医学系研究科医学医療教育学分野准教授 医学・看護学教育センター副センター長 |
| | 山下 芳樹 | 三重大学大学院医学系研究科医学・看護学教育センター助教 |
| | 森尾 邦正 | 三重大学医学部助教（黒潮医療人養成プロジェクト担当） |
| | 宮崎 洸匠 | 学生（6年生：きゅうめい部） |
| | 森井 啓太 | 学生（5年生：災害医療） |
| | 宮園 翔伍 | 学生（4年生：総合診療） |
| | 宮島 真悟 | 学生（4年生：総合診療） |
| | 坪田 奈奈歩 | 学生（4年生：災害医療） |
| | 北山 千奈 | 学生（1年生） |
| | 堀井 学 | 三重県立志摩病院管理者兼病院長 |
| | 藤井 英太郎 | 名張市立病院院長 |
| | 北出 卓 | 紀南病院内科医長 三重県地域医療研修センター長 |
| 山添 尚久 | 町立南伊勢病院院長 | |
| 江角 悠太 | 志摩市民病院地域医療医務監 | |

II. 事業実施・評価の体制

2. 事業評価体制

毎年、各大学において自己点検評価をおこない、改善点を事業計画に反映させます。また、連携大学が相互にサイトビジットをおこないピア評価をおこないます。これらの自己評価を取り纏め、事業推進委員会に報告するとともに、外部委員、行政関係者を含む評価委員会の評価を受けるものとします。評価指標として、プログラムの実施状況、履修した学生数、制作した e-learning 教育コンテンツの数等を用います。

■ 事業評価委員会

敬称略

| | 氏名 | 役職 |
|------|------|-----------------------|
| 委員長 | 家保英隆 | 高知県理事(保健医療担当)・健康政策部医監 |
| 副委員長 | 野口晴子 | 早稲田大学政治経済学術院教授 |
| 委員 | 高村昭輝 | 富山大学医学部医学教育学講座教授 |
| | 倉本秋 | 一般社団法人高知医療再生機構理事長 |

■ 令和7年度事業評価委員会

日時：令和8年3月23日(月) 14:00～15:00

開催方法：オンライン会議 (zoom)

〈評価委員からの主なご意見〉

- 3大学の連携のもと、地域医療人材養成に向けた取組が着実に進められており、全体として順調に推移している点は評価できる。
- LICの履修者数の確保については課題があり、学生にとって魅力的なプログラム設計を通じ、学生間で関心が広がるような取組が求められる。
- 教育プログラムの成果を、卒後の進路や初期研修、地域定着へとつなげていく視点が重要である。
- 修了生のキャリア追跡等を通じて、教育効果を中長期的に把握する仕組みの構築が求められる。
- 地域における医師偏在の課題を踏まえ、地域特性に応じた人材育成の在り方について検討していくことが重要である。
- 感染症分野など一部領域における人材育成については課題があり、今後の強化が期待される。
- 地域志向性アンケートについては有用な指標であり、単なる評価にとどめず、結果を教育内容の改善やプログラム設計にどのように反映させていくかが重要である。
- 事業の成果については、可能な限り数値等により可視化し、公表していくことが重要である。
- 各都道府県の関係機関等に対しても、本事業の意義や成果を積極的に発信していくことが望まれる。

3. 文部科学省による中間評価について

本事業は、文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」として、令和7年度に中間評価を受審しました。

その結果、本拠点は総合評価「B」（おおむね順調に進捗）と評価されました。

■ 評価された主な取組

本事業については、以下の点が評価されました。

- 3大学（高知・三重・和歌山）の連携による広域的な地域医療教育の展開
- 体験実習・アクティブラーニング・長期滞在型実習（LIC）を通じた一貫した教育体系
- 合同シンポジウムや e-learning 等を活用した大学間連携の推進
- 一般学生も含めた参加促進による教育の裾野拡大

■ 主な課題

一方で、今後の事業推進に向けて、以下の点が指摘されました。

- 教育プログラム全体の構造や重点の整理・可視化
- 学生交流のさらなる充実（質・量の両面）
- 長期滞在型実習（LIC）への参加促進
- 本事業の中核となる取組の明確化

■ 今後の対応方針

これらの指摘を踏まえ、今後は以下の取組を重点的に推進します。

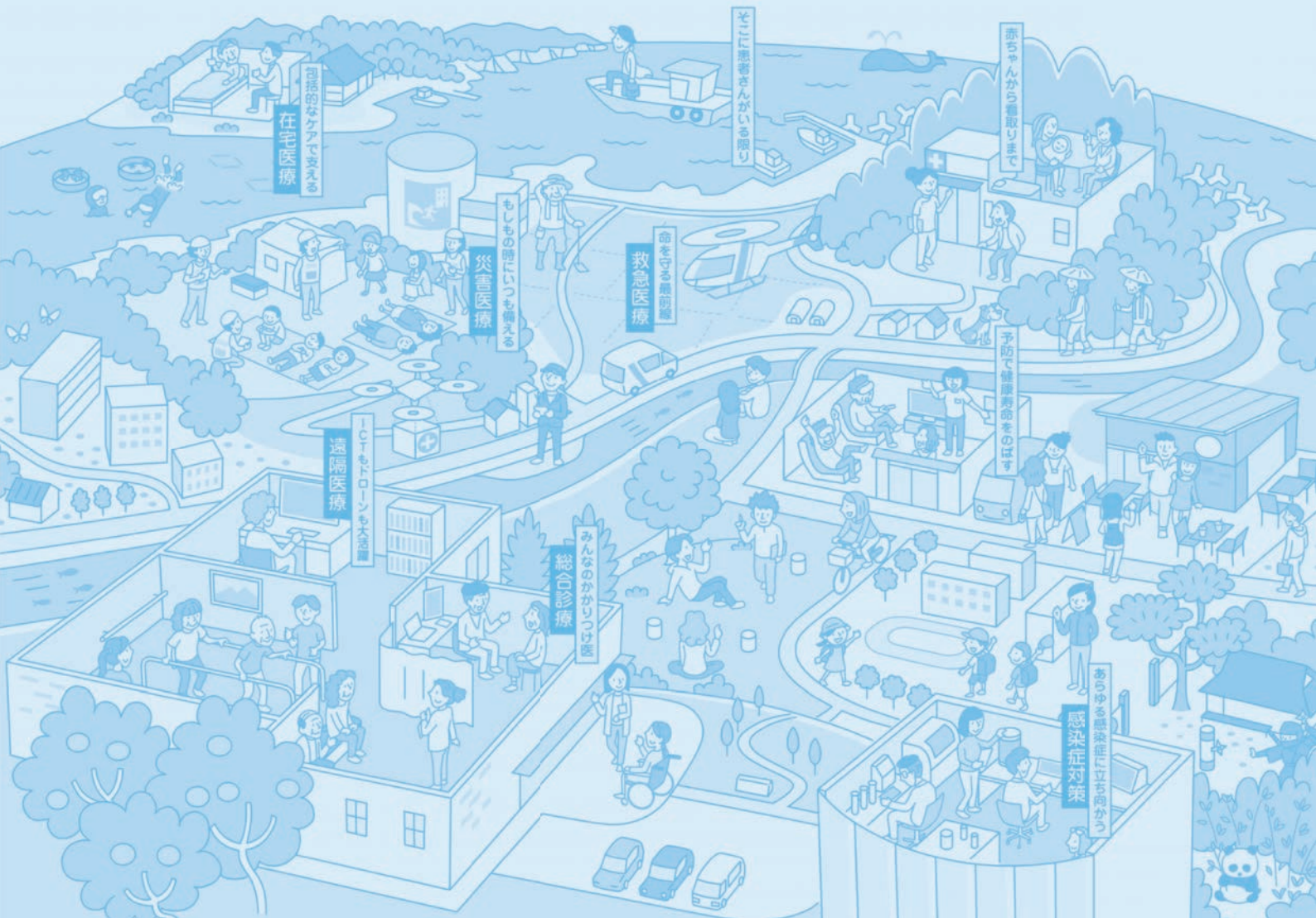
- 教育効果の可視化（地域志向性等の定量評価の活用）
- 学生交流の強化（合同振り返り・合同研修・シンポジウム等）
- 長期滞在型実習（LIC）を中核とした教育モデルの強化
- 教育体系の整理と分かりやすい情報発信

■ 今後の方向性

本事業は、3大学の連携を基盤として地域医療人材の育成に取り組むものであり、今後は教育体系の整理および教育効果の可視化を進めるとともに、持続可能な地域医療人材育成モデルの確立を目指してまいります。

III

事業実施状況報告



III 事業実施状況報告

1. 教育プログラム

① 高知大学

| 人事および運営体制 | |
|-----------|-----------------------------------------|
| 令和7年 4月 | 本プロジェクトを担当する特任教授、事務補佐員を継続雇用 |
| 令和7年 6月 | 第1回連携校事業推進委員会において、事業の進捗状況を確認 |
| 令和7年 12月 | 第2回連携校事業推進委員会において、事業の進捗状況と来年度の準備状況を確認予定 |

| 教育プログラム進捗状況 | |
|----------------|---------------------------------|
| 体験実習 | |
| 令和7年 9月 8日 | 臨床体験実習Ⅱ 事前オリエンテーション |
| 令和7年 9月 9～11日 | 臨床体験実習Ⅱ (前半) あき総合病院で2年生10名が実習 |
| 令和7年 9月 16～18日 | 臨床体験実習Ⅱ (後半) 幡多けんみん病院で2年生14名が実習 |
| 令和7年 9月 19日 | 臨床体験実習Ⅱ 報告会実施 |
| 令和8年 2月 4日 | 臨床体験実習Ⅰ 事前オリエンテーション |
| 令和8年 2月 8～10日 | 臨床体験実習Ⅰ (前半) 幡多けんみん病院で1年生13名が実習 |
| 令和8年 2月 11～13日 | 臨床体験実習Ⅰ (後半) あき総合病院で1年生7名が実習 |
| 令和8年 2月 17日 | 臨床体験実習Ⅰ 振り返り会 実施 |
| 令和8年 2月 17日 | 臨床体験実習Ⅲ 事前オリエンテーション |
| 令和8年 2月 18～20日 | 臨床体験実習Ⅲ (前半) 幡多けんみん病院で3年生13名が実習 |
| 令和8年 2月 24～26日 | 臨床体験実習Ⅲ (後半) あき総合病院で3年生10名が実習 |
| 令和8年 2月 27日 | 臨床体験実習Ⅲ 振り返り会 実施 |

| アクティブラーニングコース | |
|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 令和7年 4月 | 履修学生確定、各研究班授業開始 |
| 〈地域総合診療コース〉 2年生4名、3年生2名、4年生4名履修。それぞれのテーマに沿った研究を進めている | |
| 令和7年 6月 20～22日 | 第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(札幌)に参加 「漢方薬処方をめぐる不適切処方に関する研究」ポスター発表(3年生) 「地域医療現場における健康リテラシーとポリファーマシー」口演発表(4年生) |
| 令和7年 5月 18～20日 | 教員2名が和歌山・三重に訪問。三重大学のアクティブラーニングコースの指導の様子、公民館での学生による健康教室の様子を視察。サイトビジット会議にて事業の進捗・課題を確認 |
| 令和7年 11月 | 日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部地方会に高知大学の学生8名が参加し、1演題を発表 |
| 〈医療DXコース〉 2年生1名、3年生5名、4年生1名履修 医療介護連携システム(高知家@ライン)を用いた実習、レセプトデータ等を用いた分析に取り組んでいる | |
| 令和7年 6月 27～29日 | 日本老年医学会学術集会(千葉)で3年生5名、4年生1名が発表 |
| 〈災害救急・感染症コース〉 2年生5名、3年生5名、4年生7名履修 | |
| 令和7年 4月 25～26日 | 弘前大学医学部において「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に関する取組の共有および現場視察を目的としたサイトビジットを実施 |
| 令和7年 5月 31日 | 黒潮医療人養成プロジェクトと山里海医学共育プロジェクト合同で7大学の学生42名(高知大11、和医大1、三重大12、岡山大13、島根大1、香川大2、鳥取大2)による実習を実施。START法トリアージ、トリアージタグの書き方、災害時無線通信の方法、災害現場でのロープ操作、応急手当のための三角巾使用方法等を履修。南国市の避難タワー3基の見学後、取組に関する意見交換会を実施 |
| 令和7年 6月 1日 | 高知県総合防災訓練において、傷病者役として学生112名(高知大医学科生14/看護学科生67、和医大1、三重大12、岡山大13、島根大1、香川大2、鳥取大2)が参加 |

| | |
|--------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 令和7年 8月27日 | 筑波大学および東京科学大学と、感染症 e-learning コンテンツの共同利用に関するミーティングを実施 |
| 令和7年10月 4日 | 三重大学附属病院防災訓練に傷病者役として学生5名、教員1名が参加 |
| 令和7年10月 5日 | 兵庫県「人と防災未来センター」見学および貸施設での災害救急研修に、学生6名、教員1名が参加 |
| 令和7年10月28日～30日 | 日本救急医学会総会・学術集会にて学生1名が発表 |
| 令和7年12月 3日 | 感染症 web 勉強会開始（第1回テーマ「尿路感染症」：和医大主催） |
| 令和8年 3月11日 | 第2回 感染症 web 勉強会実施（テーマ「肺炎」：高知大学主催） |
| 令和8年 3月19日～21日 | 日本災害医学会総会・学術集会（新潟）にて学生1名が1演題発表 |
| 長期滞在型クリニカルクラークシップ (LIC) | |
| 令和7年4月 8日 | 学務委員会にて令和7年度臨床実習IIの学生県外派遣について審議、教授会で報告 |
| 令和7年5月 2日 | あき総合病院と学生との合同オリエンテーション実施 同院指導医、同院で実習予定の和医大生、高知大生及び2大学の教員がオンラインで参加 |
| 令和7年5月 8日 | 幡多けんみん病院と県外学生の合同オリエンテーションに同院指導医、同院で実習予定の和医大生、高知大・和医大教員がオンラインで参加 |
| 令和7年5月18日 | 教職員が和歌山県および三重県の拠点病院・協力病院を訪問し、実習学生との意見交換をおこなった。国保さすみ病院、那智勝浦温泉病院、紀南病院、相野谷診療所を訪問 |
| 令和7年6月～7月 | あき総合病院で実習予定の学生へオリエンテーション実施 |
| 令和7年4月～8月 | 3県の拠点病院と大学とをオンラインで繋いでの実習振り返りを週1回実施 |
| 令和7年4月 | 三重県立志摩病院で高知大生1名が実習 |
| 令和7年5～7月 | あき総合病院で高知大生3名、和医大生1名が実習 |
| 令和7年5、7～8月 | 幡多けんみん病院で和医大生1名、三重大生1名が実習 |
| 令和8年3月 | 和歌山県橋本市民病院および三重県立志摩病院でそれぞれ高知大生1名が実習 |
| そ の 他 | |
| 令和8年1月 9日 | 第4回全国フォーラム（名古屋大学）に教職員7名が参加（現地参加：3名） |
| 令和8年3月14日 | 第4回合同シンポジウムを主催（高知市） |

自己評価

各教育プログラムとも、概ね計画通りに実施されている。

体験実習については、実習先での受入体制が安定しており、学生レポート等からも肯定的な意見が多く確認されている。

アクティブラーニングコースでは、各コースが主体的に活動を展開しており、3大学間での交流も引き続き活発である。特に、防災訓練等の合同実習は高い満足度を維持しており、学生の主体的な学びを促進する貴重な機会となっている。また、今年度は他拠点との連携も強化され、「山里海医学共育プロジェクト」との合同研修に加え、筑波大学・東京科学大学との感染症関連 e-learning コンテンツの共同利用、弘前大学へのサイトビジットなど、全国的な教育交流を推進した。

長期滞在型クリニカルクラークシップでは、県外大学からの学生受入が継続しておこなわれ、参加学生の振り返りも好評である。一方で、高知大学からの履修者は6名（目標12名）にとどまっており、参加者数の確保が課題である。今後は、早期からの周知や履修支援の充実を図り、参加促進に取り組む必要がある。

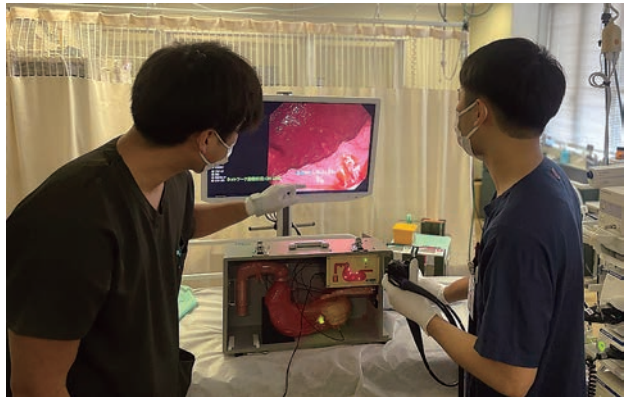
全体としては、3大学の連携体制が円滑に機能しており、プログラムの実施を通じて教育の質の向上に寄与していると考えられる。今後も、継続的な評価と改善を重ねながら、各教育プログラムのさらなる充実を図っていく。

Ⅲ. 事業実施状況報告

■ 体験実習



2年次：合同カンファレンスへの参加
(令和7年9月 あき総合病院)



2年次：内視鏡体験
(令和7年9月 幡多けんみん病院)



1年次：病棟での実習
(令和8年2月 あき総合病院)



3年次：手技の見学
(令和8年2月 幡多けんみん病院)



3年次：脳血管造影の見学
(令和8年2月 幡多けんみん病院)



3年次：病院見学
(令和8年2月 あき総合病院)

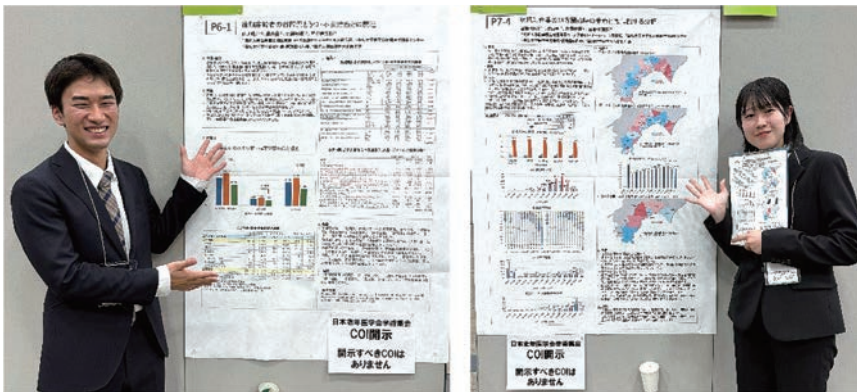
■ アクティブラーニングコース

- 地域総合診療コース



日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（札幌）（令和7年6月）

- 医療 DX コース



日本老年医学会学術集会（千葉）
（令和7年6月）

- 災害救急・感染症コース



7大学合同災害時対応訓練（令和7年5月）



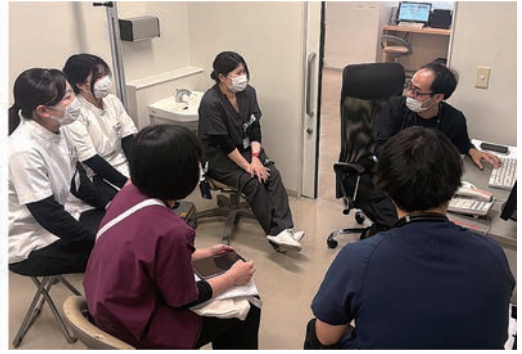
高知県総合防災訓練（令和7年6月）



三重大学附属病院防災訓練（令和7年10月）

Ⅲ. 事業実施状況報告

■ 長期滞在型臨床クラークシップ (LIC)



三重県立志摩病院での高知大生の LIC の様子
(令和 7 年 4 月、令和 8 年 3 月)

橋本市民病院での高知大生の LIC の様子
(令和 8 年 3 月) 高知大生と和医大生



あさ総合病院での高知大生の LIC の様子 (令和 7 年 5 月～ 6 月) :
(左から) 馬路診療所にて採血をしている様子、訪問診療の様子、病院でのカンファレンスの様子



オンラインでの3大学合同振り返り (令和 7 年 5 月) : 幡多けんみん病院で実習中の和医大生の発表の様子

■ その他



全国フォーラム
(令和 8 年 1 月)

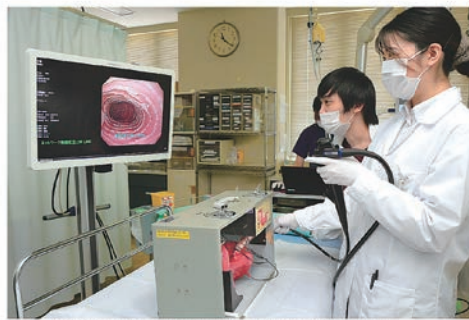
合同シンポジウム



掲載記事（高知新聞 令和8年2月27日）：体験実習および合同シンポジウムについて

高知新聞

地域医療目指す学生養成中 高知大など3県大学

体験実習で内視鏡の操作を体験する学生
(宿毛市山奈町芳奈の幡多けんみん病院)

来月高知市でシンポ

地域医療に携わる医師の育成に向け、高知大学医学部と和歌山県立医科大学、三重大学医学部が「黒潮医療人養成プロジェクト」に取り組んでいる。3月に高知市で合同シンポジウムが開かれる予定で、指導教員らは「地域医療を志す学生が定着すれば県全体の利益になる。医療関係者以外も聞きに来て」と呼びかけている。

同プロジェクトは文部科学省の事業に採択

され2022年にスタート。過疎高齢化や医療資源の偏在、南海トラフ地震対応などの共通課題を抱える3県の大学が、連携したカリキュラムの下で体験実習や相互派遣などを行い、地域医療を志す学生を育成している。

高知大では1学年当たり100人前後の学生が参加。これまでのアンケートでは、参加していない学生に比べて地域医療への関心ががりにくいという結果が出ているという。

高知大の3年生約20人は2月、あき総合病院と幡多けんみん病院で2泊3日の実習に臨んだ。けんみん病院では13人が複数の診療科に分かれ、検査を見学したり、内視鏡の操作を体験したりした。

泌尿器科の外来や手術を見学した浅井航介さん(18)は「重い病気を診ながら、地域に根付いた町医者のような役割も感じた。自然が好きなのでこんな環境で働くのは楽しそう」と話していた。

合同シンポは3月14日午後2〜5時、高知市九反田の市文化プラザかるぼとで開かれる。沖縄県中部病院の高山義浩医師が「ポストパンデミックの地域医療を考える」と題して講演し、学生らが事例報告する。入場無料。申し込みは4日までに同プロジェクトの専用サイトから。問い合わせは高知大医学部地域医療支援室(0888・8888・2744)へ。
(新妻亮太)

2026年(令和8年)2月27日

Ⅲ. 事業実施状況報告

② 和歌山県立医科大学

人事および運営体制

令和7年 4月 前年度と同様の体制で令和7年度事業を開始
令和7年 4月 担当事務補助員1名を前年度に続き継続パート雇用
令和7年 7月 担当教員1名雇用
令和7年 6月 令和7年度第1回連携校事業推進委員会において、事業の進捗状況を確認
令和7年 12月 令和7年度第2回連携校事業推進委員会において、事業の進捗状況と来年度の準備状況を確認

教育プログラム進捗状況

体験実習

令和7年 10月 黒潮体験実習(病棟実習Ⅰ)・2日間実施(2年生) 那智勝浦町立温泉病院：2名参加
令和8年 3月 黒潮体験実習(病棟実習Ⅱ)・2日間実施(3年生) 那智勝浦町立温泉病院：2名参加

アクティブラーニングコース

〈地域総合診療コース〉

令和7年 4月 履修学生確定(1年生：2名、2年生：4名(継続)、3年生：4名(継続))
以後合計7回、学生・教員ミーティングを実施
令和7年 6月 21～22日 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会@札幌に学生8名、教員2名参加
「本学における遠隔外来の利用状況に関する後ろ向き観察研究」口演発表(3年生)
令和7年 7～8月 1年生：早期体験実習・3日間実施(橋本市民病院、紀北分院：2名参加)
2年生：地域総合診療・3日間実施(橋本市民病院、紀北分院：2名参加)
3年生：地域総合診療・5日間実施(橋本市民病院、紀北分院、国保すさみ病院、
紀南病院(和歌山)：4名参加)
令和7年 9月 28日 なちかつ健康フェスタ 2025 に学生1名参加
令和7年 11月 16日 健康支援活動@めっけもん広場、紀の川市に学生1名参加
令和7年 11月 29日 紀宝町の地域医療オールスター感謝祭 2025@ 紀宝町生涯学習センターまなび
の郷に学生2名参加
令和8年 2月 17～20日 遠隔外来オンラインインタビュー実施(4診療所)

〈サイトビジット〉

令和7年 5月 三重大学アクティブラーニングサイトビジット教員：3名参加
プレサイトビジットツアーとして、国保すさみ病院、那智勝浦町立温泉病院を高知大学・三重大学教員と訪問
新宮市で懇親会を実施。三重大学教職員、地域医療人材養成拠点病院、診療所医師・事務職員19名参加

〈災害・救急(感染症)コース〉

令和7年 5月 高知：防災訓練体験研修(学生：1名参加)
令和7年 6月 黒潮災害救急講義(3年生)
令和7年 7月 黒潮災害救急実習・3日間 和歌山ろうさい病院：2名参加(1年生)
令和7年 10月 三重：防災訓練体験研修(1年生：4名、5年生：4名、教員：4名参加)
令和7年 11月 黒潮感染症講義(4年生)
令和8年 3月 新潟：日本災害医学会総会にて発表(学生3名参加)



長期滞在型クリニカルクラークシップ (LIC)

令和7年5月12～30日

県内：7名【橋本市民病院・国保すさみ病院・那智勝浦町立温泉病院・紀北分院】

県外：3名【幡多けんみん病院・あき総合病院(高知)、紀南病院(三重)】

令和7年6月2～20日

県内：7名【橋本市民病院・国保すさみ病院・那智勝浦町立温泉病院・紀北分院】

県外：1名【南伊勢病院(三重)】

令和7年6月23日～7月11日

県内：3名【那智勝浦町立温泉・紀北分院】

令和8年1月26日～2月13日

県内：6名【橋本市民病院・那智勝浦町立温泉病院・紀北分院】

県外：2名【南伊勢病院・県立志摩病院(三重)】

令和8年2月16日～3月6日

県内：6名【橋本市民病院・那智勝浦町立温泉病院・紀北分院】

県外：3名【紀南病院・県立志摩病院(三重)】

令和8年3月9～27日

県内：2名【橋本市民病院】

県外：2名【南伊勢病院・県立志摩病院(三重)】

・LIC 期間中、振り返り・実習報告会を毎週木曜日に開催(一部高知・三重大学の学生・教員も参加)

その他

令和8年1月 全国フォーラム 名古屋大学附属病院にて開催 教員：2名参加

令和8年3月 第4回合同シンポジウム(高知大学主催) 学生7名参加・発表

自己評価

各プログラムとも概ね計画通りに進捗している。

長期滞在型クリニカルクラークシップでは、学生事前アンケート、実習コーディネータ・学生事前ミーティング、振り返り・実習報告会を継続して実施している。実習コーディネータの協力も得られ、実習内容の質の改善と、教育拠点の形成を実感している。また、県外での実習も多数の学生が参加しており、交流が活発となっている。

アクティブラーニングコース(地域総合診療コース)では、2年前のコース開始時より日本プライマリ・ケア連合学会@札幌への参加・発表を目標として実施してきたが、目標を達成することができた。地域医療支援センターの体制変更もあり、学生・教員ミーティングの実施回数は少なくなったが、関係各所の協力もあり健康支援活動等への参加など、学生が地域で活動する機会を得られた。遠隔外来の利用に関するオンラインインタビューを4診療所で実施した。

災害・救急コースは、県内2病院での実習を予定していたが、参加者が集まらず1病院での実施となった。一方、高知・三重での防災訓練体験研修に複数の学生が参加した。コース参加後の学生が自主的に和歌山県総合防災訓練やメディカルラリーにも参加するようになり、コースが自己学習の動機づけにつながっている。

体験実習については、参加学生が目標よりも少ない傾向が続いたため、今年度から学生が興味を持てるようなプログラムへの改善を図った。学生の協力を得てSNSを通じたリクルートも行っている。

Ⅲ. 事業実施状況報告

■ アクティブラーニングコース



第16回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会参加

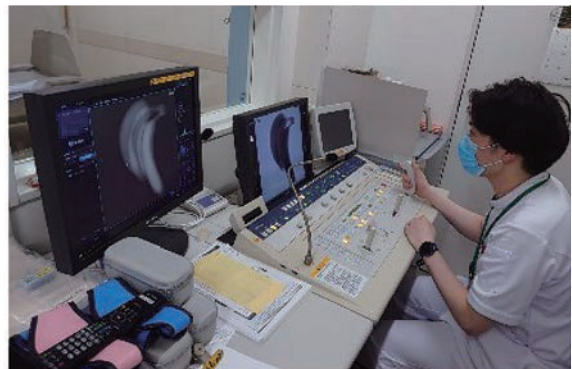
■ 長期滞在型臨床クラークシップ (LIC)



◀▶
あき総合病院での
手技実習



県立志摩病院外観 (三重)



国保すさみ病院での放射線室実習 (透視撮影練習)



高知 沖の島での巡回診療



那智勝浦町立温泉病院でのエコー実習



紀北分院訪問診療同行



紀北分院での BLS 実習



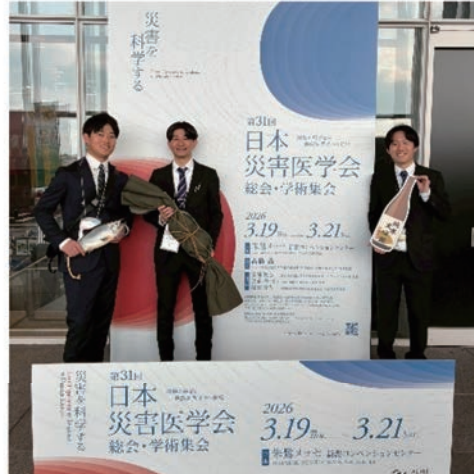
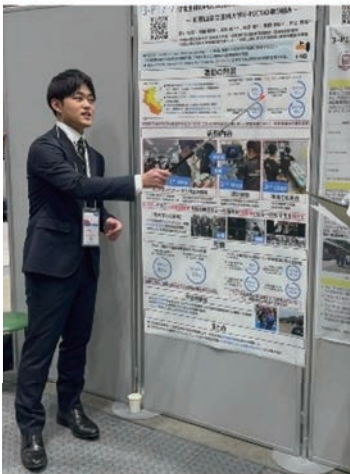
三重大学での避難訓練、災害研修参加



三重大学生と交流記念写真



和歌山ろうさい病院での災害研修



第 31 回日本災害医学会 発表・参加

Ⅲ. 事業実施状況報告

③ 三重大学

人事および運営体制

令和7年4月 プロジェクト担当助教、事務補佐員を継続雇用
令和7年4月 令和7年度第1回連携校事業推進委員会において、事業の進捗状況確認
令和7年8月 令和7年度第2回連携校事業推進委員会において、事業の進捗状況確認
令和8年1月 令和7年度第3回連携校事業推進委員会において、事業の進捗状況確認

教育プログラム進捗状況

体験実習

令和7年 5月～6月 「医療と社会」地域基盤型保健医療教育実習 事前準備・初回訪問（1・2年生）
令和7年 8月～11月 「医療と社会」地域基盤型保健医療教育実習
（1年生、市町担当者や住民様等にインタビュー）
令和7年 7月～12月 「医療と社会」地域地盤型保健医療教育実習（2年生、地域貢献活動）
令和7年10月 地域基盤型保健医療教育実習終了後総括（1年生）
令和8年 2月 地域基盤型保健医療教育実習報告会（1・2年生）

アクティブラーニングコース

〈地域総合診療コース〉

令和7年5月19～20日

高知大学、和歌山県立医科大学の教職員計6名のサイトビジット受入。地域総合診療の活動見学、サイトビジット会議を実施（高知大2名、和医大3名、三重大4名、の教職員が参加）して事業の進捗・課題を確認した。

令和7年6月20～22日

第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（札幌）に学生19名、教員4名が参加。それぞれの研究テーマを発表した。

令和7年7月

研究室研修（1年生）を開始し、総合診療部で4名受け入れた。（1年生4名）

〈災害救急・感染症コース〉

令和7年4月10～12日

第125回日本外科学会学術大会に学生5名（医学科5年生2名、4年生1名、3年生2名）および教員2名が参加し、災害関連の上級セッションに参加した。また、東北大学災害科学国際研究所を訪問し、東日本大震災伝承施設（リアス・アーク美術館、南三陸町東日本大震災伝承館〈南三陸311メモリアル〉）および被災遺構（石巻市震災遺構門脇小学校）を視察した。

令和7年8月22日

中部国際空港検疫所見学実習（医学科：1年生4名、3年生2名、4年生2名、看護学科：3年生1名、4年生3名、教員1名）

令和7年5月31日～6月1日

3大学合同実習：31日は、高知大学にて無線・クロノロジー・三角巾・ロープワーク実習、南国市津波避難タワー見学。1日は、高知県総合防災訓練に傷病者役として参加した（三重大学：医学科1年生2名、4年生3名、6年生1名、看護学科1年生6名、教職員2名）。

令和7年7月

研究室研修（1年生）を開始し、災害対策推進・教育センターにおいて2名を受け入れた。

令和7年9月22日

Tri-U 国際ジョイントセミナー&シンポジウム(三重大学テーマ: Disaster management)において、災害時デジタル簡易無線のデモンストレーションおよび本邦の防災用品などの説明を行った(1年生1名)。

令和7年10月4~5日

3大学合同実習: 10月4日は、三重大学附属病院の大規模防災訓練に学生148名(三重大135名:医学科5年生123名、1~4年9名、看護学科3名、高知大:学生5名、和歌山医大:学生8名)が合同実習として、多数傷病者受入れ訓練(医療者補助役、搬送伝令役、傷病者役)、エアーストレッチャー使用の搬送訓練、AR浸水没入体験を行った。さらに、三重大学5年生以外(学生25名、教員8名)が三重大学医学部臨床講義棟にて、三重大生によるBLS、デジタル簡易無線の情報伝達訓練、山下医師の「民生委員・児童委員の目から見た、防災と地域貢献」、岸和田医師「トリアージって何?~命を守る色分けを学び、体験する~」の講義を受講した。3大学教員にてサイトビジットミーティングも開催し、課題と今後の予定について情報共有を行った。三重大学内食堂(レストランばせお)にて交流会を開催した。10月5日は、病院防災施設(食料・医薬品備蓄、感染症危機管理センター、エネルギーセンター)の見学を行った。

令和7年11月14日

三重大学全学津波被災訓練での救護所設営、搬送訓練の実施(医学科2名、看護学科15名)

令和7年11月16日

地域自主防災訓練(津市)にて応急救護の実技指導を一般参加者(約100名)に実施(1年生2名)。

令和8年2月22日

令和7年度三重大学・防災アカデミー(県民公開講座、志摩市)にて講演・実技指導を実施(3年生2名)。

令和8年3月16日

みえ企業等防災ネットワーク全体会(津市)にて実技指導を実施(3年生2名)

令和8年3月19~21日

3大学合同実習: 第31回日本災害医学会総会・学術集会(新潟)へ3大学の学生・教員が参加した。学生は10名(三重大6名〔1年生2名、3年生2名、4年生2名〕、高知1名、和歌山3名)、教員は9名(三重大5名、高知3名、和歌山1名)であった。学生による学会発表は、口演発表2題(三重大1題、高知1題)、ポスター発表2題(三重大1題、和歌山1題)を行い、さらに3大学間での口演発表ラウンドおよびポスターラウンドも実施した。全員懇親会において、意見交換会を行い、大学間の交流を深めた。能登半島地震の経験した輪島病院事務長から病院BCPに関する講演を聴講した。

三重大学のみでは、新潟県中越地震の伝承施設(おらたるやまこし復興交流館)を訪問し語り部による講話を聴講し、さらに震災遺構の現地視察を行った。

長期滞在型クリニカルクラークシップ (LIC)

令和7年5月7日~6月6日 三重大学6年生1名が地域拠点病院(和歌山県立医科大学附属病院紀北分院)で実習

令和7年7月14日~8月8日 三重大学6年生1名が地域拠点病院(高知県立幡多けんみん病院)で実習

その他

令和8年1月9日 第4回全国フォーラムに教員2名が参加(うち教員1名はオンライン参加)

令和8年3月14日 第4回合同シンポジウム(主催:高知大学医学部)参加
(現地参加:教員4名、学生4名・オンライン参加:教職員8名、学生2名)

自己評価

連携校事業推進委員会における活発な議論とともに、体験実習、アクティブラーニングコース、長期滞在型クリニカルクラークシップは計画に沿って着実に進捗している。

アクティブラーニングコースにおける自己評価を以下に記す。

1. 黒潮医療人材養成プロジェクト e-ラーニングの動画コンテンツの活用

防災訓練に参加する前の事前学習として、黒潮医療人材養成プロジェクト e-ラーニングの動画コンテンツを視聴してもらっている。実際のトリアージや医療現場の様子を視覚的に把握することで、具体的なイメージを持ち、訓練内容への理解促進につながっている。

2. 医学生による説明発表の教育効果

防災訓練に参加する学生に対し、訓練の目的などを医学生自身が発表する形式を採用した。これにより、発表学生の自己学習の深化に加え、聴講学生にとっても同年代からの講義を受けることで共感が生まれ、熱心な聴講姿勢と前向きな学習意欲につながった。

3. 交流企画の実施

3大学合同実習の終了後には、食事を共にしながらの交流会を企画した。これにより、活発な意見交換が行われ、多大学間でのコミュニケーションの向上が確認された。特に複数回参加した学生同士では、交流の深化という成果も得られた。

4. 3大学教員によるサイトビジットミーティングの効果

合同実習時に3大学の教員が一堂に会し、闊達な意見交換を行った結果、次回以降の教育に向けた新たな工夫やアイデアが多数生まれ、有意義なディスカッションが展開された。

5. 被災地訪問と語り部講話を通じた災害理解の深化

東日本大震災および新潟県中越地震の伝承施設や被災遺構を実際に訪問・視察することで、学生は被災の規模や現場の雰囲気を感じ、災害を「自分ごと」として捉える意識を醸成する貴重な機会となった。さらに、語り部による講話を通じて、発災当時の状況や復興に至るまでの経緯、地域が直面した課題と教訓について学ぶことができ、災害医療や地域防災に対する理解をより深める教育的意義の高い取り組みとなった。

■ 体験実習

- 地域基盤型保健医療教育実習(令和7年8月)



地域住民の方々へのインタビュー調査(1年生)

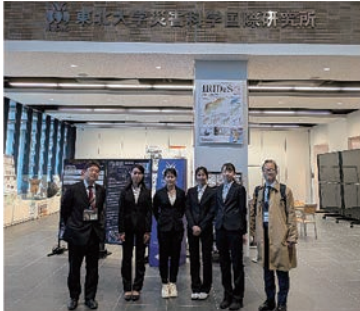


地域の高齢者を対象とした体操教室(2年生)

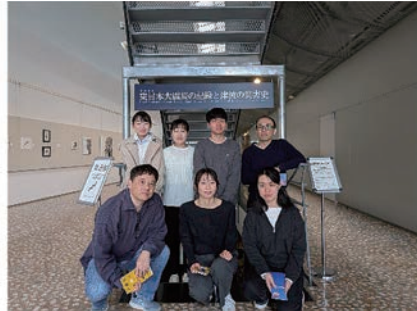


■ アクティブラーニングコース

- 東北大学災害科学国際研究所・東日本大震災伝承施設・東日本大震災遺構の訪問(令和7年4月)



東北大学災害科学国際研究所



東日本大震災伝承施設(リアス・アーク美術館)



石巻市震災遺構門脇小学校

- 3大学合同実習：高知大学での実習、高知県総合防災訓練(令和7年5、6月)



ロープワーク実習



三角巾実習



南国市スポーツセンタータワー見学



降雨体験



高知県総合防災訓練での傷病者役



- 中部国際空港検疫所見学実習(令和7年8月)



検疫医療専門職からのレクチャー



中部国際空港施設見学

Ⅲ. 事業実施状況報告

• Tri-U 国際ジョイントセミナー&シンポジウム (令和7年9月)



Tri-U 国際ジョイントセミナー&シンポジウム参加



デジタル簡易無線デモンストレーション

• 3大学合同実習：三重大学防災訓練・病院防災設備見学 (令和7年10月)



医学科5年生への全体説明



IPADを使用した浸水没入体験



エアーストレッチャーによる搬送訓練



医療者補助役(トリアージタグ記入)



搬送伝令役(ストレッチャー搬送)



傷病者役



医学生によるBLS実技指導



デジタル簡易無線の情報伝達訓練



ミニレクチャー1(山下医師)



ミニレクチャー2(岸和田医師)



集合写真(3大学)



意見交流会(3大学)



病院防災施設の講義



備蓄用食倉庫の見学



自家発電設備の見学

- 三重大学津波被災訓練での救護所設営、搬送訓練 (令和7年11月)

- 防災アカデミー (令和8年2月)



救護所本部 (クロノ口担当)



リアカー搬送訓練



講演 (破傷風)

- 地域自主防災訓練にて AR 浸水体験・シーツ搬送指導 (令和7年11月)

- みえ企業等防災ネットワーク (令和8年3月)



AR 浸水体験 (説明)



シーツ搬送 (指導)



AR 浸水体験 (説明)

- 3大学合同実習：第31回日本災害医学会総会・学術集会 (新潟) への参加 (令和8年3月)



学会会場での集合写真 (3大学)



新潟中越地震震災遺構 (山古志村)



語り部からの講義 (復興交流館)



病院 BCP 講演の聴講 (3大学)



口演ラウンド (3大学)



ポスターラウンド (3大学)

2. 大学間連携事業

① e-learning

(1) e-learning について

黒潮医療人養成プロジェクトでは、教育プログラムの学習の補助として、3大学共同でe-learning コンテンツを制作しています。コンテンツは、「総合診療」「災害救急・感染症」「実践臨床」の3つのカテゴリーに分類し、対象となる学年が分かりやすいようラベルを付して提供しています。

黒潮医療人養成プロジェクトのウェブサイトでのe-learningのページ

e-ラーニング

ホーム/eラーニング

本プロジェクト履修学生用のオンライン学習動画コンテンツです。
IDとパスワードを入力して閲覧してください。

e-ラーニング動画を見る
(閲覧にはID・パスワードが必要です)

動画カテゴリー

総合診療



BPSモデルとインテグラル理論

32分 / 2024年12月26日

全学年



研究の基本骨格を組み立てる

21分38秒 / 2024年04月03日

全学年



**ICTを活用した多職種協働
～高知の取り組み概要～**

- ・高知大学医学部 医療学講座 予防医学・地域医療学分野 (公衆衛生学) 准教授
- ・高知大学 ライン事務局長 宮野伊知郎

18分33秒 / 2024年03月28日

全学年

災害救急・感染症



感染症web勉強会～肺炎～

59分34秒 / 2026年03月17日

高学年・研修医



高知大学医学部防災について

36分21秒 / 2026年01月25日

全学年



**災害医療研修動画
災害時のメンタルヘルスケア**

34分27秒 / 2026年01月23日

全学年

実践臨床



インフルエンザ

28分57秒 / 2026年03月17日

高学年・研修医



**めまい
Vertigo**

31分37秒 / 2026年03月17日

高学年・研修医



尿路感染症

46分33秒 / 2025年12月25日

高学年・研修医

(2) 公開範囲

制作したコンテンツは自大学のLMS(3大学とも moodle を使用)で履修学生に提供しています。高知大学がコンテンツの管理をおこない、他大学での利用を許諾しているコンテンツはウェブサイト上でも公開しています。本ウェブサイト上のコンテンツはID、パスワードを付与された連携校の履修学生、関係者(研修医、一般学生、指導医等)も視聴可能です。また、ポストコロナ GP e-learning システム(T-COME)の活用も一部開始しており、今後さらに幅広い活用が期待されます。

| プラットフォーム | 公開範囲 | | | |
|------------------------------------------|---------------|---------------|--------------|-----------------------------|
| | 履修学生 (自大学) | 履修学生 (連携校) | 学生 (他の拠点) | 関係者 (研修医、一般学生、 指導医、等) |
| moodle | ○ | | | |
| 黒潮医療人養成プロジェクト ウェブサイト | ○ | ○ | | ○ |
| ポストコロナ GP e-learning システム (T-COME) | ○ | 設定により | 設定により | 設定により |

(3) コンテンツ制作状況と利用状況

令和5年度以降、毎年10コンテンツ以上の制作を目標とし、地域ニーズに対応できる多様な内容の提供を目指しています。令和7年度は3大学で計12コンテンツを制作し、これまでに制作したコンテンツの総数は54となっています。

プロジェクトのウェブサイト上で公開している47コンテンツについては、利用状況を収集しており、コンテンツの総視聴回数は2,058回、総視聴時間は236時間30分となっています(令和8年3月17日時点)。昨年度の同時期と比較すると、1年間で約800回、約90時間の増加となっており、コンテンツの活用が進んでいることが確認されました。

今後も、より充実したコンテンツを提供し、学生の学習を支援できるよう取り組むとともに、より多くの学生や関係者に活用してもらえよう、周知や利便性の向上にも努めていきます。

Ⅲ. 事業実施状況報告

e-learning コンテンツ一覧

| カテゴリ | 作成大学 | コンテンツ名 | 対象学年 | 作成年度 | 作成数 |
|----------|-------------------|--------------------------------------|-----------|------|-----|
| 総合診療 | 高知大学 | 地域医療と臨床研究 | 低学年 | R4 | 8 |
| | | 地域の歩き方 | 全学年 | R5 | |
| | | ICTを活用した多職種協働～高知の取り組み概要～ | 全学年 | R5 | |
| | | 研究の基本骨格を組み立てる | 全学年 | R6 | |
| | 和歌山県立医科大学 | 総合診療ことはじめ | 全学年 | R4 | |
| | | BPSモデルとインテグラル理論 | 全学年 | R6 | |
| 三重大学 | Pubmedを用いた文献検索 | 全学年 | R4 | | |
| | 地域アセスメント | 低学年 | R5 | | |
| 災害救急・感染症 | 高知大学 | 高知県の南海トラフ地震対策 | 全学年 | R5 | 25 |
| | | 津波肺 | 全学年 | R5 | |
| | | 避難所での感染対策(呼吸器感染症対策編) | 全学年 | R5 | |
| | | DMATと災害時医療対応の原則 | 全学年 | R6 | |
| | | トリアージと治療 | 全学年 | R6 | |
| | | 東日本大震災から考えた医療機関の南海地震対応 | 全学年 | R6 | |
| | | 高知県の南海トラフ地震対策～キーワードは総力戦～ | 全学年 | R6 | |
| | | 高知県の災害医療体制と高知大学附属病院 | 全学年 | R6 | |
| | | 避難所における災害関連死 | 全学年 | R6 | |
| | | 災害時のストレス | 全学年 | R6 | |
| | | 災害時のメンタルヘルスケア | 全学年 | R7 | |
| | | 高知大学医学部防災について | 全学年 | R7 | |
| | | web勉強会～肺炎～ | 全学年 | R7 | |
| | 和歌山県立医科大学 | 避難所での支援活動の中での感染防御の注意点 ～和歌山県 ver.～ | 全学年 | R4 | |
| | | ダニ媒介感染症・結核の基礎知識 | 全学年 | R5 | |
| | | 災害医療 | 低学年 | R4 | |
| | | 食中毒を起こす病原体 | 全学年 | R6 | |
| | 三重大学 | 災害と手指衛生 | 全学年 | R7 | |
| | | 外傷の応急処置 | 全学年 | R5 | |
| | | 担架の使用法 | 全学年 | R5 | |
| | | 籠城時病院避難二次トリアージ | 全学年 | R5 | |
| | | トリアージタグの使用法 | 全学年 | R5 | |
| | | 病院避難二次トリアージ机上訓練【実践編】 | 全学年 | R6 | |
| | | 多数傷病者受け入れ訓練【エリア訓練】 | 全学年 | R6 | |
| | 多数傷病者受け入れ訓練【本部訓練】 | 全学年 | R6 | | |
| 実践臨床 | 高知大学 | せん妄 | 高学年 + 研修医 | R5 | 21 |
| | | 救急当直一般、ショック | 高学年 + 研修医 | R6 | |
| | | 輸液、IVHの選択 | 高学年 | R6 | |
| | | 気管挿管は準備で決まる | 高学年 + 研修医 | R6 | |
| | | 胸痛 | 高学年 + 研修医 | R6 | |
| | | 発熱 | 高学年 | R6 | |
| | | モニター心電図の見方 | 高学年 + 研修医 | R6 | |
| | | 脳血管障害 | 高学年 + 研修医 | R6 | |
| | | 「DNAR、急変時 Full」って変ですか? ～終末期の方針決定～ | 高学年 + 研修医 | R6 | |
| | | 処置時の鎮静・鎮痛のコツ教えます。 | 高学年 + 研修医 | R6 | |
| | | 高齢患者のマネジメント | 高学年 + 研修医 | R6 | |
| | | 発熱～Fever～ | 高学年 + 研修医 | R7 | |
| | | モニター心電図の見方ー2025年度版ー | 高学年 + 研修医 | R7 | |
| | | 介護保険制度早わかり | 高学年 + 研修医 | R7 | |
| | | 主治医意見書を書いてみよう | 高学年 + 研修医 | R7 | |
| | | バイタルサインをよむ力を鍛えよう | 高学年 + 研修医 | R7 | |
| | | インフルエンザ | 高学年 + 研修医 | R7 | |
| | | めまい | 高学年 + 研修医 | R7 | |
| | 和歌山県立医科大学 | 地域で消化管癌を見つけたら①総論・大腸癌編 | 高学年 + 研修医 | R6 | |
| | | 地域で消化管癌を見つけたら②食道癌・胃癌編 | 高学年 + 研修医 | R6 | |
| | | web勉強会～尿路感染症～ | 高学年 + 研修医 | R7 | |

令和8年3月17日時点で計54コンテンツ(うち令和7年度12コンテンツ)を制作しています。

2 合同シンポジウム

第4回 合同シンポジウム

| | |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 概要と目的 | 3大学の教職員、学生、地域医療人材養成拠点病院関係者、行政が本プロジェクトの意義を確認、相互に交流するとともに、広く地域に対し情報発信する |
| 日 時 | 令和8年3月14日（土）14:00～17:00 |
| 場 所 | 高知市文化プラザ かるぽーと 龍馬学園イベントホール (対面とオンラインによるハイブリッド開催) |
| 主 催 | 高知大学 |
| 後 援 | 高知県、(一社)高知県医師会、(一社)高知医療再生機構 |
| 参 加 者 | 201人(現地87人、オンライン114人) |
| 次 第 | |
| 14:00 | 開 会 |
| 14:05 | 挨拶 高知大学医学部長 井上 啓史(黒潮医療人養成プロジェクト事業責任者) |
| 14:05 | 祝 辞 高知県知事 濱田 省司 |
| 14:15 | 特別講演「ポストパンデミックの地域医療を考える 培われた地域連携の未来図」 講師/高山義浩氏(沖縄県立中部病院感染症内科地域ケア科) 座長/阿波谷敏英(高知大学医学部 家庭医療学講座 教授) |
| 15:25 | 休 憩 |
| 15:35 | 参加型防災クイズプログラム「もしもの日を、今日考える。」 進行/西山謹吾(高知大学医学部危機管理医療学講座 特任教授) |
| 16:15 | 取組事例報告 ～プロジェクト履修学生による発表～ 1. 高知大学 医学科2年生4名 「へき地での体験を糧に今後の研究へ ～北海道・沖の島・土佐山診療所 心配性と不適切処方～」 2. 和歌山県立医科大学 医学科3年生 「遠隔外来利用の促進・阻害要因の探索」 3. 三重大学 医学科1年生4名 「気軽に誰でも集まれる場所をー住民と住民、住民と大学生を繋げたいー」 |
| 16:50 | 次回開催地挨拶 三重大学医学部長 平山 雅浩 |
| 16:55 | 閉会挨拶 高知大学学長 受田 浩之 |
| 17:00 | 閉 会 |

Ⅲ. 事業実施状況報告

参加者内訳

| | 計 | 高知 | 和歌山 | 三重 | 3県以外(不明含む) |
|-------------|----------|---------|--------|-------|------------|
| 医 学 生 | 80(51) | 52(34) | 23(16) | 4(0) | 1(1) |
| 上記以外の医療系学生 | 1(1) | 1(1) | 0 | 0 | 0 |
| 中 高 生 | 12(7) | 9(6) | 0 | 0 | 3(1) |
| 大 学 関 係 者 | 86(42) | 68(36) | 7(0) | 8(4) | 3(2) |
| 地 域 医 療 機 関 | 12(7) | 7(3) | 3(3) | 0 | 2(0) |
| 行 政 職 員 | 6(4) | 4(2) | 2(2) | 0 | 0 |
| その他(不明含む) | 4(2) | 3(1) | 0 | 0 | 1(1) |
| 計 | 201(114) | 144(83) | 35(21) | 12(4) | 10(5) |

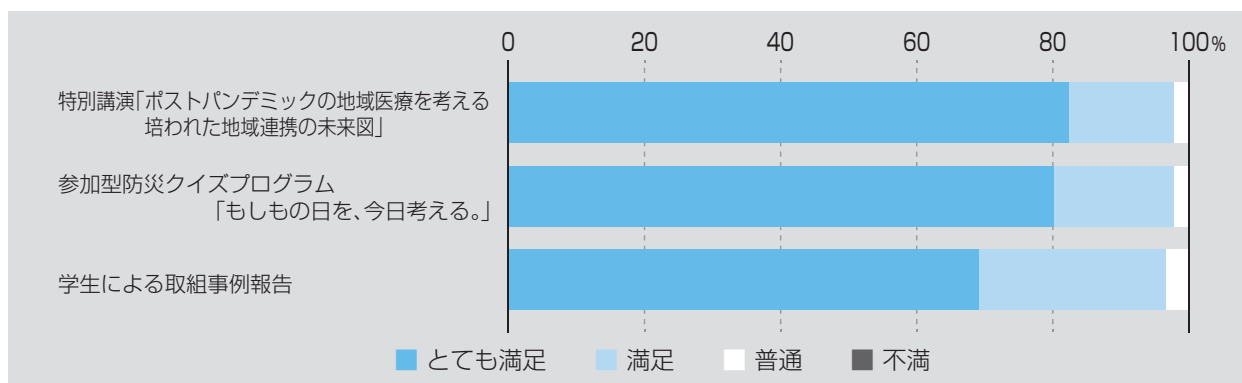
注 ()内はオンライン参加者数

参加者アンケート

回答者 92 人

(医学生 42、医療系学生 1、中高校生 7、地域医療機関 3、行政関係者 4、大学関係者 35)

【各プログラム満足度】



アンケートより (自由記述)

●特別講演「ポストパンデミックの地域医療を考える 培われた地域連携の未来図」

医学生

- ・とても有意義な時間だった。
- ・「システムが人の意思を封じてしまう可能性がある」という話が印象に残った。
- ・地域医療のあり方を改めて考える機会になった。
- ・行政としての患者さんのケアだけではなく、地域の支え合いとしての、カルチャーとしてのケアを行うことが大切だということがとても印象的だった。
- ・患者さんやご家族の考え、医療的な面での行うべき治療が複雑にかみ合わない場合、本人の意向を大切にしつつ、話し合いを進めていくことの大切さを、実際の症例をもって感じた。

中高生

- ・ただ病気に対してテキパキと手術をすれば良いというわけではないのだなと思った。
- ・行政と医療の関係やコロナ期の医療体制について知ることができた。

行政職員

- ・地域医療と行政の関わりについて理解が深まった。
- ・分かりやすく大変勉強になった。

大学関係者

- ・実体験に基づくお話に感銘を受けた。
- ・憧れの先生の講演を聞くことができ感動した。
- ・心に残る素晴らしい講演だった。

●参加型防災クイズプログラム「もしもの日を、今日考える。」

医学生

- ・クイズ形式で楽しく学ぶことができた。
- ・内容を整理しながら理解できた。
- ・災害医療について考える良い機会になった。
- ・正解の選択肢が意外なものであったところ（トイレの清潔さが保たれていないと心筋梗塞が生じやすくなるなど）では、なぜそうなるのかについても話していただき、理解が深まった。

中高生

- ・心のどこかで災害を「起こらないもの」と思っていた認識を改めるきっかけになった。

大学関係者

- ・クイズ形式で分かりやすかった。
- ・防災グッズなどを見直そうと思った。
- ・簡易トイレの大切さが分かった。

●学生による取組事例報告

医学生

- ・類似した研究テーマでも着眼点が全く違うことが面白く感じました。
- ・同じテーマでも着眼点の違いが興味深かった。
- ・同じ1年生の方たちが、地域住民の方々と触れ合う機会を自分たちで計画して実行していることに驚いた。

中高生

- ・医学生が地域活動をしていることを初めて知った。

大学関係者

- ・低学年の学生もしっかりとした意見を持っており、このプログラムに参加している学生が意欲的に取り組んでいる様子が良く分かった。
- ・内容が簡潔にまとめられていた。
- ・地域に根ざした活動で将来性を感じた。

●シンポジウム全体

医学生

- ・システムと自己決定の関係について考えさせられた。
- ・地域医療の理解が深まった。
- ・現地での質疑の様子、進行などとてもスムーズで、オンラインからの参加でも現地の様子がよく伝わってきた。

大学関係者

- ・非常に良いシンポジウムだった。
- ・勉強になる内容だった。

中高生

- ・進路に繋がる内容で、地域医療や防災について深く学べて良かった。クイズも2問正解できて嬉しかった。
- ・地域医療や防災について学ぶことができた。
- ・シンポジウムの内容が分かりやすく、医学知識が無いなりに新しく知れたことがたくさんあった。

■当日の様子



Ⅲ. 事業実施状況報告



・ 今後30年以
発生する確
(政府地...)



ポスター

地域から、日本の医療の未来を描く

黒潮医療人養成プロジェクト 第4回 合同シンポジウム

2026. 3.14(土) 14:00-17:00 参加費 無料
オンライン参加OK **ハイブリッド形式**

会場：高知市文化プラザ かるぼーと 龍馬学園イベントホール (小ホール) 高知県高知市九反田 2-1

特別講演 高山 義浩 氏 (中規模立中等病院 感染症内科 地域ケア科)
「ポストパンデミックの地域医療を考える 増えた地域医療の未来図」

参加型防災クイズプログラム「もしもの日を、今日考える。」

取組事例報告
プロジェクト参加学生の発表 など

高山 義浩 氏
中規模立中等病院 感染症内科 地域ケア科
黒潮医療人養成プロジェクト 実行委員会 代表理事
高知大学 地域医療推進センター 地域医療推進部長
高知市立総合医療センター 地域医療推進部長
高知市立総合医療センター 地域医療推進部長
高知市立総合医療センター 地域医療推進部長

お申し込みはこちらから
お申し込みは、お申し込みフォームからご参加ください。
お申し込みは、お申し込みフォームからご参加ください。
お申し込みは、お申し込みフォームからご参加ください。

主催：高知大学医学部
共同主催：高知大学看護学部 高知大学歯学部
095-858-2744 22 kurochodmp@kuc.u.ac.jp



3 学生相互派遣・交流

黒潮医療人養成プロジェクトでは、大学間の相互交流を積極的におこなっています。各大学の特色を活かした実習や学術大会への合同参加を通じて、学生同士が学び合う機会を提供し、多様な地域ニーズに応えることのできる医療人の育成を目指しています。

■ アクティブラーニングコース（地域総合診療コース）

● 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会へ合同参加

地域総合診療コースでは、令和5年度より毎年、日本プライマリ・ケア連合学会学術大会に3大学合同で参加し、ポスターツアーを実施しています。令和7年度は、6月22日に実施された北海道での学術大会に3大学の学生32名（高知大学9名、和歌山県立医科大学9名、三重大学14名）が参加し、学生11名（高知大学2名、和歌山県立医科大学1名、三重大学8名）が演題発表をおこないました。



地域総合診療コースでの3大学合同での日本プライマリ・ケア連合学会学術大会への参加の様子（令和7年6月）

■ アクティブラーニングコース（災害救急・感染症コース）

● 3大学合同での防災訓練を実施

災害救急・感染症コースでは、3大学合同で防災に関する実習を実施しています。令和7年度は高知県および三重県において合同実習をおこないました。

令和7年5月31日から6月1日にかけて、災害時対応研修ならびに高知県総合防災訓練に参加しました。災害時対応研修には、山里海医学共育プロジェクトも加わり7大学の学生42名（高知大11名、和医大1名、三重大12名、岡山大13名、島根大1名、香川大2名、鳥取大2名）が参加し、実践的な災害時対応研修をおこないました。また、高知県総合防災訓練では学生112名（高知大医学科生14名 / 看護学科生67名、和医大1名、三重大12名、岡山大13名、島根大1名、香川大2名、鳥取大2名）が傷病者役として参加しました。高知県防災訓練では台湾のテレビ局による取材も受け、防災教育の取組について広く発信する機会となりました。

さらに、10月4日には三重大学附属病院防災訓練において、3大学の学生148名（高知大5名、和医大8名、三重大医学科生132名 / 看護学科生3名）が参加し、多数傷病者受入れ訓練などを含む合同実習および病院防災施設の見学研修をおこないました。

Ⅲ. 事業実施状況報告

災害時対応研修と高知県総合防災訓練(令和7年5月、6月)



日本最大級の津波避難タワー見学(高知県南国市)



実践的な災害時対応研修(三角巾の使用方法)



高知県総合防災訓練に傷病者役として参加

三重大学での大規模災害訓練と合同研修(令和7年10月)



トリアージタグ記入



エアーストレッチャー搬送訓練



デジタル簡易無線の情報伝達訓練

● 日本災害医学会総会・学術集会への合同参加

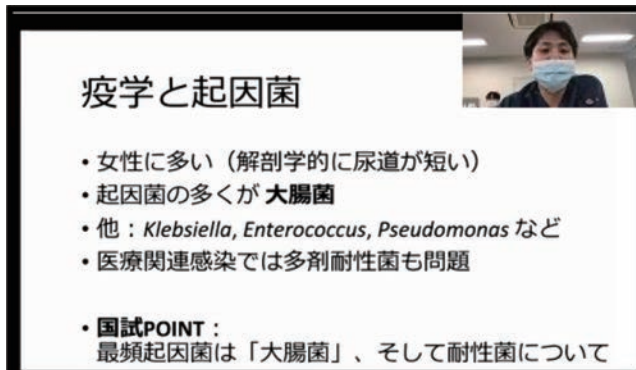
災害救急・感染症コースでは、日本災害医学会総会・学術集会への合同参加もおこなっており、今年度は令和8年3月19～21日に新潟県で開催される同集会に3大学の学生計10名(高知大学1名、和歌山県立医科大学3名、三重大学6名)が参加し4演題を発表しました(高知大学1、和歌山県立医科大学1、三重大学2)。



● 3大学合同 感染症 Web 勉強会の実施

令和7年12月より、医学生や研修医を対象としたオンラインによる感染症 Web 勉強会を3大学合同で開催しています。

勉強会の内容は、e-learning コンテンツとしてウェブサイト上に掲載するとともに、各大学における実習時の教材として活用しています。定期的な開催と継続的な学びを通じて、感染症に関する専門的な学習機会を創出しています。



和歌山県立医科大学による尿路感染症をテーマにした発表の様子



勉強会のチラシ

■ 長期滞在型クリニカルクラークシップ (LIC)

令和5年度より大学間の学生相互派遣をおこなっています。令和7年度は各大学から以下のように学生の相互派遣をおこない、3大学の学生計16名（高知大学3名、和歌山県立医科大学11、三重大学2名）が自県以外の病院での実習を経験しました。

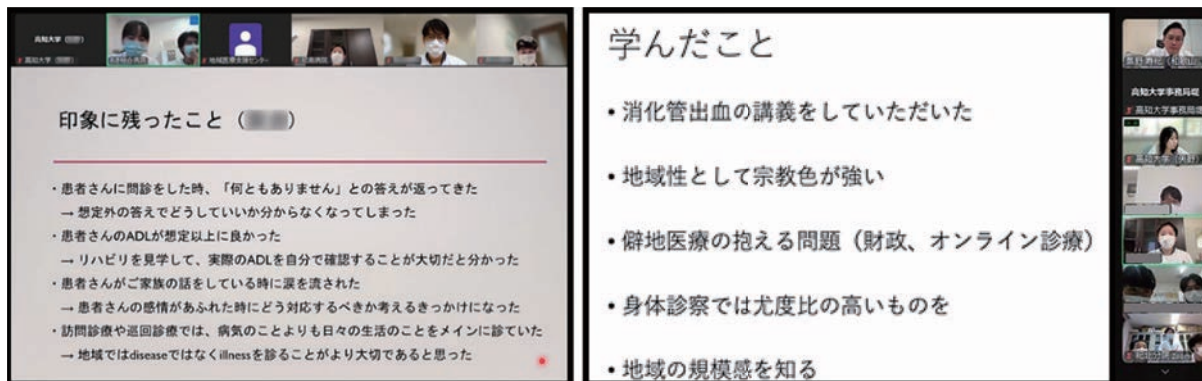
● 大学間学生相互派遣実績（令和7年度）

| 実施大学 | 派遣先 | | 期間 | 人数 |
|-----------|-----------------|-------------------|-----------------|----|
| 高知大学 | 和歌山県 | 橋本市市民病院 | 令和8年3月2日～13日 | 1名 |
| | 三重県 | 県立志摩病院 | 令和7年3月2日～13日 | 1名 |
| | | | 令和8年3月2日～13日 | 1名 |
| 和歌山県立医科大学 | 高知県 | 県立幡多けんみん病院 | 令和7年5月12日～30日 | 1名 |
| | | 県立あき総合病院 | 令和7年5月12日～30日 | 1名 |
| | 三重県 | 組合立紀南病院 | 令和7年5月12日～30日 | 1名 |
| | | | 令和8年2月16日～3月6日 | 2名 |
| | | 町立南伊勢病院 | 令和7年6月2日～20日 | 1名 |
| | | | 令和8年1月26日～2月13日 | 1名 |
| | | | 3月9日～27日 | 1名 |
| 県立志摩病院 | 令和8年1月26日～2月13日 | 1名 | | |
| | 2月16日～3月6日 | 1名 | | |
| | 3月9日～27日 | 1名 | | |
| 三重大学 | 高知県 | 県立幡多けんみん病院 | 令和7年7月14日～8月5日 | 1名 |
| | 和歌山県 | 和歌山県立医科大学附属病院紀北分院 | 令和7年5月7日～6月6日 | 1名 |

Ⅲ. 事業実施状況報告

● オンラインでの合同振り返りの実施

LIC 期間中は、拠点病院で実習中の学生、指導医、各県の大学教員をオンラインでつなぎ、週1回の合同振り返りを実施し、学生らの体験共有に加え、指導医や教員も実習へのフィードバックを得る貴重な機会となりました。



(左) 高知県あき総合病院で実習をおこなった高知大生と和医大生の発表スライド(令和7年5月)
 (右) 三重県組合立紀南病院で実習をおこなった和医大生の発表スライド(令和7年5月)



合同振り返りにおける実習学生と指導医、大学教員
 (高知県立あき総合病院、紀北分院、橋本市民病院、那智勝浦町立温泉病院、国保すさみ病院：令和7年6月)

● 長期滞在型臨床クラークシップにおける学生相互派遣交流の様子

(令和7年4月～令和8年3月)



(左) 三重県立志摩病院での研修医の先生方と高知大生(右から2番目)
 (右) 高知県立あき総合病院でカンファレンス中の高知大生と和医大生(右2人)

4 サイトビジット

黒潮医療人養成プロジェクトでは、大学間および他拠点との相互理解の促進と教育の質の向上を目的として、サイトビジットを実施しています。教育内容や運営上の工夫の共有を通じて、各教育プログラムの改善に資する機会となっています。

■ アクティブラーニングコース（災害救急・感染症コース）

● ポストコロナ事業他拠点校でのサイトビジットを実施

令和7年4月25～26日、高知大学から教職員4名が弘前大学医学部を訪問し、サイトビジットを実施しました。

本学と同様に「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の拠点校である弘前大学において、教育プログラム等の取組内容について情報共有を行うとともに、弘前大学高度救命救急センター・被ばく医療施設およびつがる総合病院を視察し、地域医療に関する意見交換をおこないました。



サイトビジット会議や実習施設、被ばく医療施設、つがる総合病院見学の様子

● 3 大学合同実習に合わせ教職員がサイトビジットを実施

令和7年5月31日、7大学合同災害時対応研修にて、教職員11名（高知大学7名、三重大学2名、岡山大学2名）が災害に関する取組みについて災害に関する取組みについて評価しあいました。また、令和7年10月4日、三重大学での大規模防災訓練にあわせたサイトビジット会議にて、課題や予定について協議をおこないました。

令和8年3月14日、合同シンポジウム（高知県）にあわせて意見交換をおこないました。



高知大学災害時対応訓練（令和7年5月）

三重大学附属病院大規模防災訓練（令和7年10月）

Ⅲ. 事業実施状況報告

■ アクティブラーニングコース（地域総合診療コース）

● 3大学の教職員が関連施設の視察およびサイトビジット会議を実施

地域総合診療コースでは毎年、3大学持ち回りでサイトビジットを実施しており、令和7年度は5月18から20日にかけて和歌山県、三重県で実施しました。3大学の教職員8名（高知大学1名、和歌山県立医科大学3名、三重大学4名）が参加しサイトビジット会議を実施しました。各大学がアクティブラーニングコースの実施状況について報告し意見交換をおこなったほか、T-COMEの運用や合同シンポジウム、学生エコーサークルの展開、補助事業終了後について協議をおこないました。

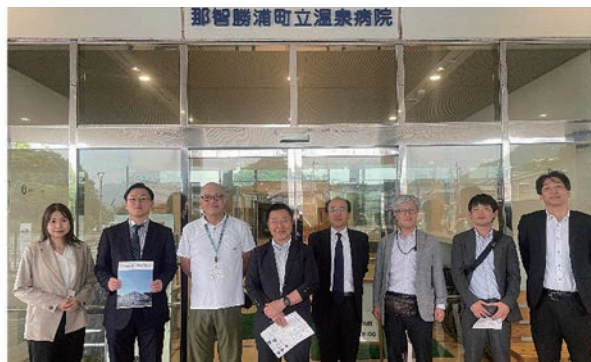
■ 長期滞在型臨床クラークシップ（LIC）

● 3大学の教職員が高知県の拠点病院を視察

令和7年5月18、19日に、地域総合診療コースのサイトビジットとあわせて、3大学の教職員9名（高知大学2名、和歌山県立医科大学4名、三重大学3名）が、和歌山県および三重県の拠点病院等（国保すさみ病院、那智勝浦町立温泉病院、紀南病院組合立紀南病院、きなん苑、あたわ在宅診療所、相野谷診療所、くまのなる在宅診療所）を訪問し、LIC履修中の学生（和歌山県立医科大学）と意見交換をおこないました。



三重の組合立紀南病院で実習中の和医大生とのヒアリング



那智勝浦町立温泉病院訪問



施設利用者との活動の様子



紀宝町防災拠点ビル 屋上

■ 合同シンポジウム

● ポストコロナ事業他拠点校のサイトビジットを受入れ

ポストコロナ事業の他拠点校である岐阜大学医学部長が合同シンポジウムに参加され、教育プログラムの取組状況等について情報共有と意見交換をおこないました。

3. 地域志向性アンケート調査

① 研究計画書

(1) 背景と目的

医学の進歩に伴い、医療は高度化、細分化が進み、医師の大病院、都市部への偏在が社会問題となっている。これに対し、全国の医学部では、入学定員を増やし、地域枠として卒業後の医師不足地域での勤務を義務付け、医師の地域偏在の解消に努めている。しかし、地域枠卒業医師が地域ニーズの高い総合的な領域（総合診療、救急、感染症、等）に進むことを期待されているにもかかわらず、専門分化された診療科を志向することも少なくない。学部教育として学生に地域ニーズへの深い理解が求められるようになり、2022年度、文部科学省の補助事業「ポストコロナ時代における医療人材養成拠点形成事業」が公募された。

高知大学、和歌山県立医科大学、三重大学では「黒潮医療人養成プロジェクト」として応募し採択された。3大学の立地する高知県、和歌山県、三重県では、過疎高齢化が進み、中山間地が多く、長い海岸線に沿って集落が点在するなど社会的な状況が類似しており、医療の安定的な確保に共通課題がある。また、南海トラフ巨大地震が発生した際には、甚大な津波被害が予想されている。本事業では、3大学で連携して地域指向型医学教育を推進し、地域ニーズを深く理解し、課題解決のためにリーダーシップを発揮する医療人を養成することを目標にしている。

「黒潮医療人養成プロジェクト」では、各県に地域医療人材養成拠点病院を定め、同院での低学年からの体験実習、高学年での長期滞在型のクリニカルクラークシップ（Longitudinal Integrated Clinical Clerkship）、複数学年にわたるアクティブラーニングコース、3大学合同シンポジウムを計画している。こうした地域指向型教育の効果を測るために、継続的に学生の地域指向性を調査することとした。

(2) 研究方法等

ア 研究対象者

2022年度から2028年度に高知大学・三重大学・和歌山県立医科大学に在籍している医学科の学生を対象とする。毎年、1年生（入学時）、3年生、5年生、6年生（卒業時）を対象にアンケート調査を実施する。アンケート実施にあたり、適切な同意を得る。

イ 研究期間

2022年度（倫理委員会承認日）～2029年3月31日

ウ データ収集方法

3大学それぞれに自大学の学生に対し、オンラインで実名のアンケート調査を実施する。アンケート調査項目は、出身地の人口規模、地域指向性尺度15項目とする。アンケート調査項目以外に、大学が把握し所属する教員に開示している学生基本情報（出身地、入試種別、学年、履修科目、等）も利用する。地域指向性尺度は、川本らが開発した地域志向性尺度（文科省科研15K04236）を使用する。

エ 分析方法

研究責任者または研究分担者は、自大学の各学生のアンケート回答データから、個人情報を削除し番号を付与し匿名化する。管理番号と学生の個人情報の対応表を別途作成し、アンケート回答データを扱うコンピュータと接続していない外部記録媒体に分けて保管する。管理番号と個人情報の対応表を保存した外部記録媒体は施錠した保管庫で厳重に管理する。研究分担者は匿名化したアンケート回答データのみを研究責任者に送付する。

Ⅲ. 事業実施状況報告

地域指向型の教育プログラムの履修により、学生の地域指向性が変化したかを調査し、プロジェクトの有効性を検証する。また、入試制度（地域枠）、出身地の違いにより効果に差異が生じるかも検証する。

(3) 倫理的配慮

本研究は、高知大学医学部倫理委員会の承認を受けることとする。データは厳格に管理することとし、本研究の目的のために限り使用し、第三者に提供及び開示を行わない。研究終了後、不要となるデータ等は速やかに廃棄することとする。

(4) 研究組織

| | |
|----------------------|--------------|
| 高知大学医学部家庭医療学講座 | 阿波谷敏英（研究代表者） |
| 和歌山県立医科大学地域医療支援センター | 蒸野 寿紀 |
| 三重大学大学院医学系研究科統合薬理学分野 | 西村 有平 |

2 令和7年度調査結果

(1) 回答数 / 対象者数

全体として 85.1% の回答率であった。令和4年度 53.3%、令和5年度 71.8%、令和6年度 73.1% と徐々に回答率が上昇している。

| 学年 | 高知大学 | | 和歌山県立医科大学 | | 三重大学 | |
|-----|-----------|-------|-----------|-------|-----------|--------|
| 1年生 | 107 / 111 | 96.4% | 86 / 101 | 85.1% | 125 / 125 | 100.0% |
| 3年生 | 103 / 120 | 85.8% | 81 / 104 | 77.9% | 80 / 127 | 63.0% |
| 5年生 | 121 / 125 | 96.8% | 84 / 98 | 85.7% | 109 / 123 | 88.6% |
| 6年生 | 91 / 106 | 85.8% | 71 / 93 | 76.3% | 102 / 129 | 79.1% |
| 全体 | 422 / 462 | 91.3% | 322 / 396 | 81.3% | 416 / 504 | 82.5% |

(2) 地域志向性スコア

入学時は高いが学年が上がるにつれ低下、卒業時に再び上昇する傾向がある。また、出身地の人口規模が小さいほどスコアが高い傾向がある。いずれも過去の調査と同様である。

| 学年 | 高知大学 | | 和歌山県立医科大学 | | 三重大学 | |
|-----|--------------|-------|--------------|-------|--------------|-------|
| 1年生 | 50.69 ± 5.42 | n=107 | 46.58 ± 7.01 | n= 86 | 49.40 ± 6.78 | n=125 |
| 3年生 | 46.41 ± 7.16 | n=101 | 46.00 ± 7.25 | n= 80 | 47.76 ± 6.77 | n= 79 |
| 5年生 | 48.65 ± 5.76 | n=121 | 45.15 ± 6.74 | n= 84 | 46.27 ± 6.97 | n=107 |
| 6年生 | 49.10 ± 7.23 | n= 89 | 44.84 ± 8.01 | n= 67 | 49.53 ± 6.82 | n=102 |
| 全体 | 48.73 ± 6.53 | n=418 | 45.69 ± 7.22 | n=317 | 48.31 ± 6.94 | n=413 |

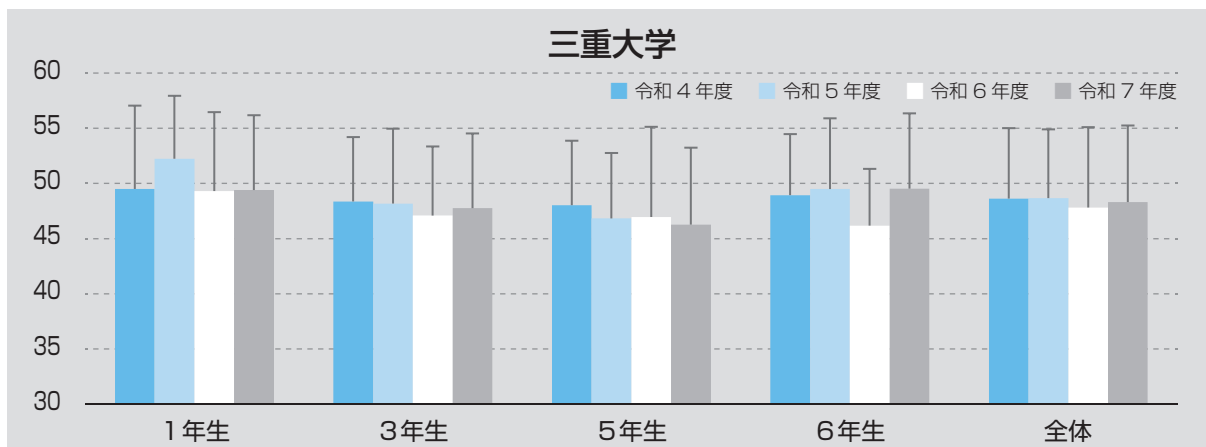
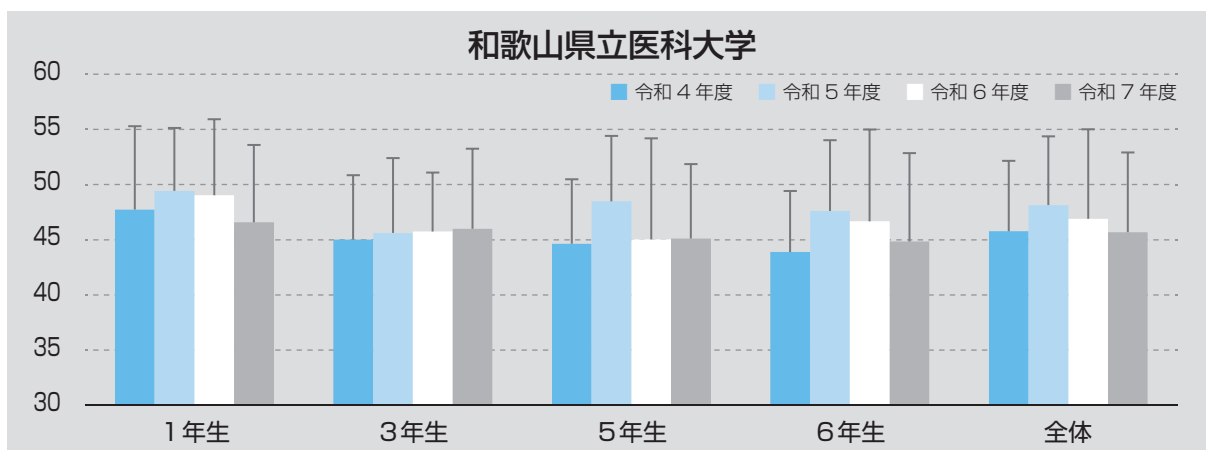
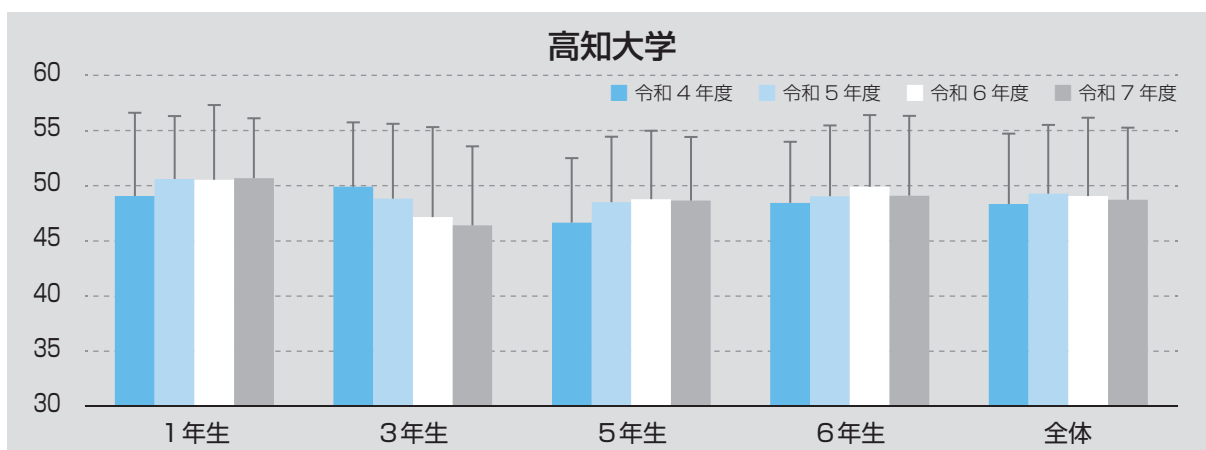
| 出身地 | 高知大学 | | 和歌山県立医科大学 | | 三重大学 | |
|-------|--------------|-------|--------------|-------|--------------|-------|
| 大都市 | 46.92 ± 7.02 | n=100 | 43.39 ± 6.86 | n= 92 | 46.26 ± 7.95 | n= 86 |
| 県庁所在地 | 48.76 ± 6.35 | n=181 | 46.50 ± 7.22 | n=121 | 48.39 ± 6.74 | n=147 |
| 地方都市 | 49.88 ± 6.21 | n=129 | 46.58 ± 7.16 | n=100 | 49.09 ± 6.45 | n=166 |
| 山村・離島 | 51.88 ± 4.61 | n= 8 | 51.50 ± 5.45 | n= 4 | 50.71 ± 5.88 | n= 14 |
| 全体 | 48.73 ± 6.53 | n=418 | 45.69 ± 7.22 | n=317 | 48.31 ± 6.94 | n=413 |

3 経年比較

学生全体のスコアを令和4～7年度で比較したが、いずれの大学においても有意な変化はない。

| 年度 | 高知大学 | 和歌山県立医科大学 | 三重大学 |
|-------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 令和4年度 | 48.34 ± 6.38 n=247 | 45.77 ± 7.16 n=273 | 48.63 ± 7.04 n=197 |
| 令和5年度 | 49.28 ± 6.23 n=379 | 48.14 ± 7.76 n=277 | 48.67 ± 7.17 n=332 |
| 令和6年度 | 49.06 ± 7.10 n=359 | 46.90 ± 8.11 n=256 | 47.82 ± 7.28 n=340 |
| 令和7年度 | 48.73 ± 6.53 n=418 | 45.69 ± 7.22 n=317 | 48.31 ± 6.94 n=413 |

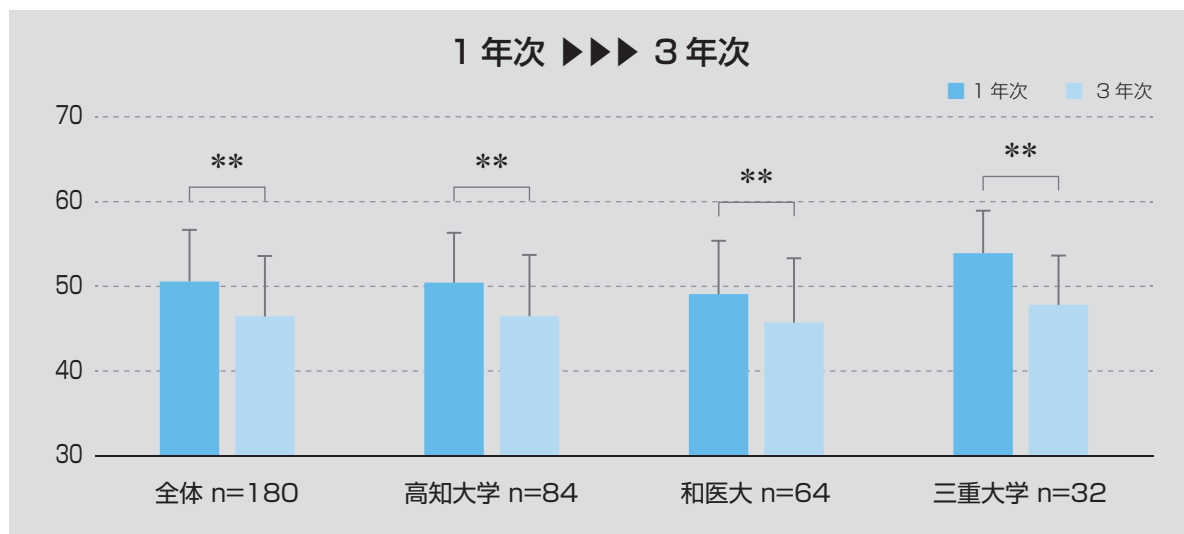
学年別に検討したが、大学、学年により特定の傾向は見られなかった。地域志向性の高い学生が入学しているか、卒業時点での地域志向性を高められているか、今後とも注視していく必要がある。



Ⅲ. 事業実施状況報告

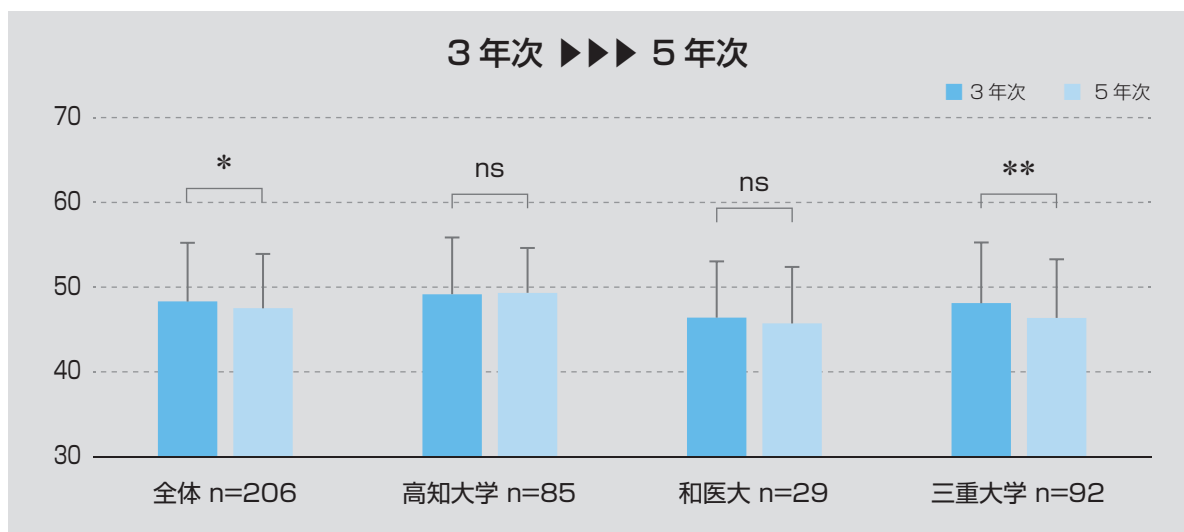
令和5年度(1年次、3年次)と令和7年度(3年次、5年次)、令和6年度(5年次)と令和7年度(6年次)。令和4年度(3年次)と令和7年度(3年次)の両方の回答が得られた学生について、地域志向性スコアを比較した。両年で有効回答を得られた学生は、それぞれ180名、206名、222名、141名であった。1年次から3年次にかけて地域志向性の有意な低下が認められた。

| | 全体 n=180 | 高知大学 n=84 | 和歌山県立医科大学 n=64 | 三重大学 n=32 |
|----------|--------------|--------------|-------------------|--------------|
| 令和5年度1年次 | 50.59 ± 6.08 | 50.45 ± 5.87 | 49.09 ± 6.29 | 53.94 ± 4.99 |
| 令和7年度3年次 | 46.46 ± 7.13 | 46.48 ± 7.24 | 45.75 ± 7.57 | 47.81 ± 5.83 |
| 増加量 | -4.13 ± 6.14 | -3.98 ± 5.95 | -3.34 ± 6.65 | -5.13 ± 5.27 |



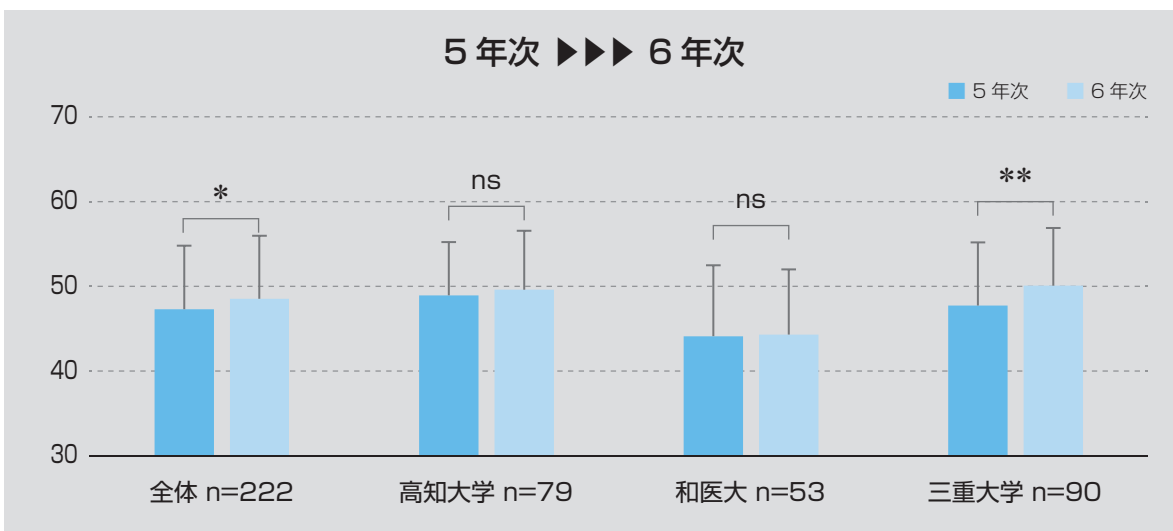
paired t-test *P<0.05 **P<0.01

| | 全体 n=206 | 高知大学 n=85 | 和歌山県立医科大学 n=29 | 三重大学 n=92 |
|----------|--------------|--------------|-------------------|--------------|
| 令和5年度3年次 | 48.31 ± 6.92 | 49.18 ± 6.69 | 46.41 ± 6.63 | 48.11 ± 7.16 |
| 令和7年度5年次 | 47.51 ± 6.41 | 49.34 ± 5.28 | 45.72 ± 6.66 | 46.38 ± 6.91 |
| 増加量 | -0.80 ± 6.78 | 0.16 ± 6.78 | -0.69 ± 6.64 | -1.73 ± 6.77 |

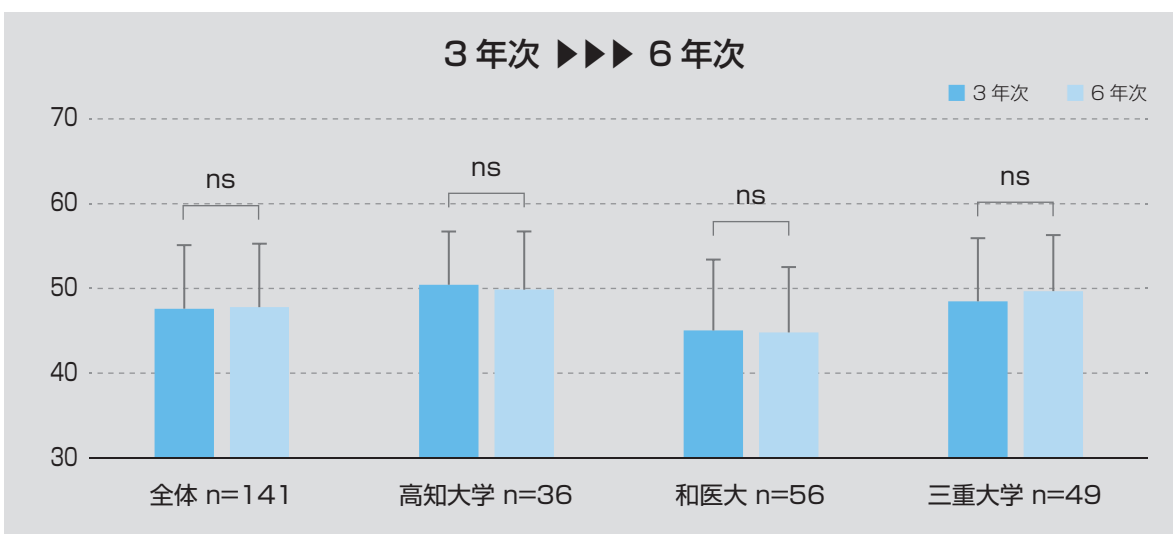


paired t-test *P<0.05 **P<0.01

| | 全体 n=222 | 高知大学 n=79 | 和歌山県立医科大学 n=53 | 三重大学 n=90 |
|----------|--------------|--------------|-------------------|--------------|
| 令和6年度5年次 | 47.31 ± 7.49 | 48.95 ± 6.28 | 44.13 ± 8.36 | 47.74 ± 7.44 |
| 令和7年度6年次 | 48.54 ± 7.43 | 49.61 ± 6.95 | 44.32 ± 7.68 | 50.09 ± 6.80 |
| 増加量 | 1.23 ± 6.45 | 0.66 ± 6.72 | 0.19 ± 7.15 | 2.34 ± 5.64 |



| | 全体 n=141 | 高知大学 n=36 | 和歌山県立医科大学 n=56 | 三重大学 n=49 |
|----------|--------------|--------------|-------------------|--------------|
| 令和4年度3年次 | 47.62 ± 6.94 | 50.44 ± 5.15 | 45.05 ± 7.48 | 48.49 ± 6.54 |
| 令和7年度6年次 | 47.80 ± 7.48 | 49.86 ± 6.87 | 44.82 ± 7.71 | 49.69 ± 6.61 |
| 増加量 | 0.18 ± 6.10 | -0.58 ± 5.45 | -0.23 ± 6.66 | 0.74 ± 4.61 |



Ⅲ. 事業実施状況報告

次に令和6年度および令和7年度のアンケートの回答者のうち、経年的な変化を追跡できた学生、のべ1,160人分の回答結果を分析した。

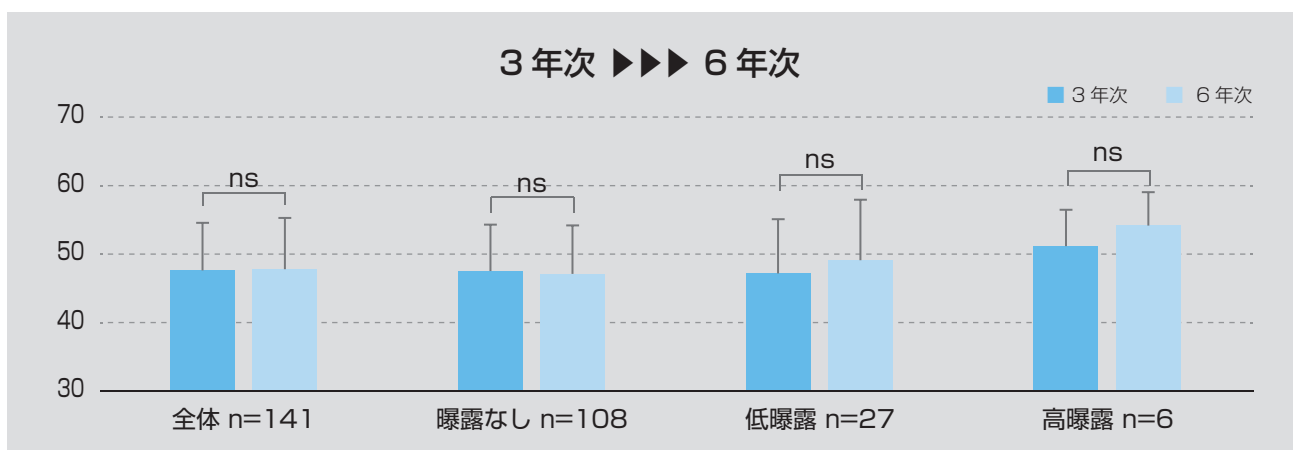
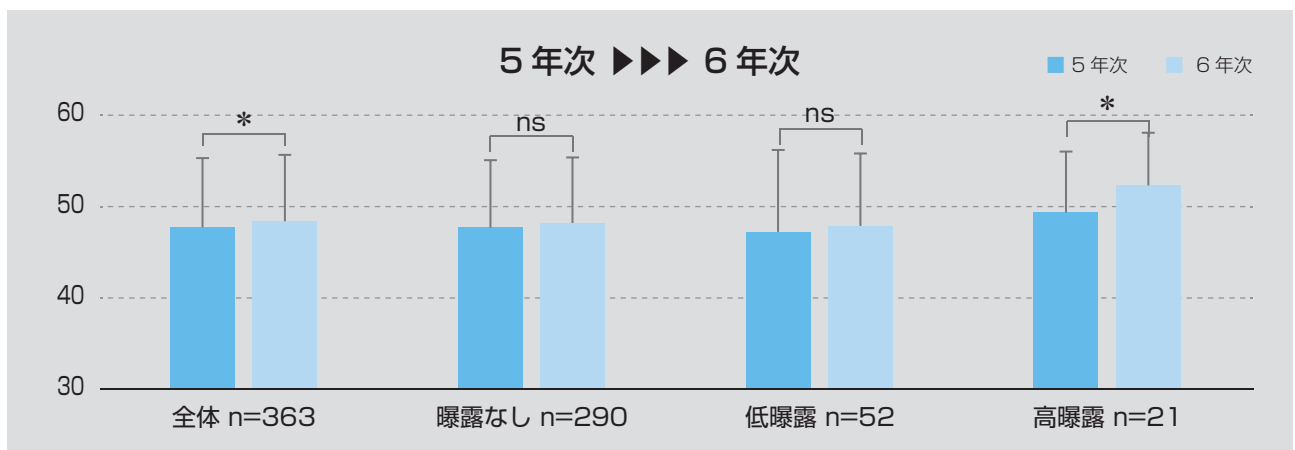
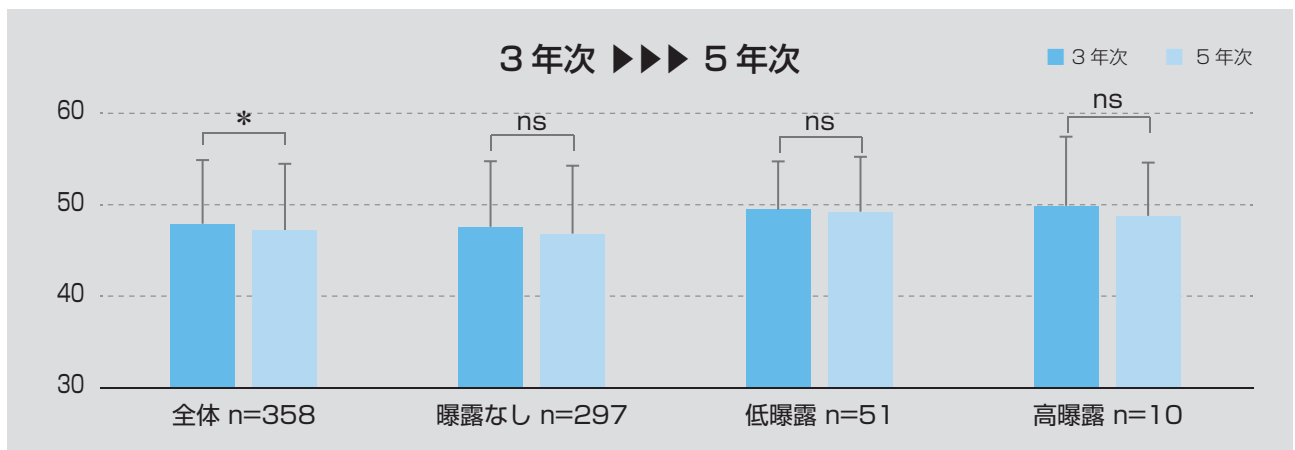
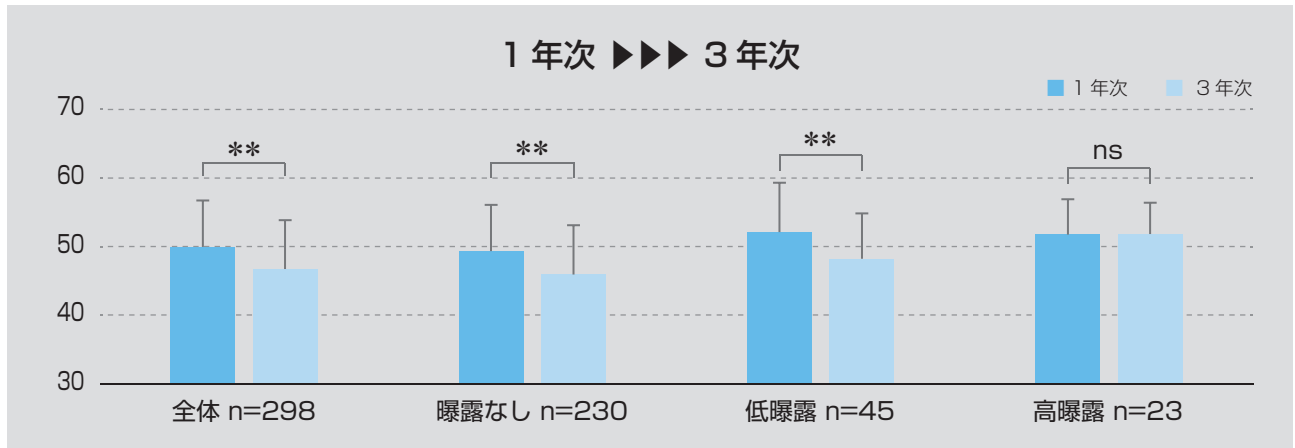
| | 全 体 | 高知大学 | 和歌山県立医科大学 | 三重大学 |
|---------|-------|------|-----------|------|
| 1年次と3年次 | 298 | 148 | 75 | 75 |
| 3年次と5年次 | 358 | 119 | 93 | 146 |
| 5年次と6年次 | 363 | 140 | 124 | 99 |
| 3年次と6年次 | 141 | 36 | 56 | 49 |
| 計 | 1,160 | 443 | 348 | 369 |

また、これら経年的な変化を追跡できた学生を、期間内での本プロジェクトのプログラム（必修を除く）の受講状況により、曝露なし、低曝露、高曝露の3群に分けて検討をおこなった。概ね1日単位のプログラムを1ポイント、1週間で5ポイントとして各学生の受講状況を算定した。0ポイントを曝露なし群、20ポイント以上の学生を高曝露群、それ以外を低曝露群とした。各群の構成は、次のとおりである。

| | 全 体 | 曝露なし | 低 曝 露 | 高 曝 露 |
|---------|-------|------|-------|-------|
| 1年次と3年次 | 298 | 230 | 45 | 23 |
| 3年次と5年次 | 358 | 297 | 51 | 10 |
| 5年次と6年次 | 363 | 290 | 52 | 21 |
| 3年次と6年次 | 141 | 108 | 27 | 6 |
| 計 | 1,160 | 925 | 175 | 60 |

前述の通り、全体として地域志向性スコアは1から3年次、3から5年次で低下、5から6年次で有意に上昇していた。しかし、プログラムの受講状況が高曝露であった学生は、1から3年次では他群でみられる有意なスコアの低下は認められず、5から6年次では他群と異なり有意なスコアの上昇が認められた。

さらに学生の地域志向性による層別化をおこない検討した。1回目の地域志向性スコアが下位1/3の学生を低志向群、上位1/3の学生を高志向群、それ以外を中志向群とし、それぞれ教育プログラムの受講状況別により地域志向性の変化を検討した。1から3年次では、中志向群、高志向群で地域志向性が低下、3から5年次では、低志向群で上昇、高志向群で低下する傾向があった。5から6年次では、低志向群および中志向群で上昇、高志向群で低下する傾向があった。プログラムの受講状況との関係では、1から3年次の中志向群において高曝露であった学生が有意なスコアの低下がない、5から6年次の高志向群において、曝露なしの学生が有意にスコアが低下する一方、低曝露、高曝露であった学生にはスコアの低下がなかった。プログラムの受講と地域志向性に相関関係を認め、プログラムが地域志向性を向上した可能性はあるが、地域志向性が改善した学生がプログラムに参加した可能性もある。今後は継続的に調査をおこなうとともに、地域志向性スコアの内訳についても分析し、地域志向性の改善と関連する学生の特性についても検証していきたい。

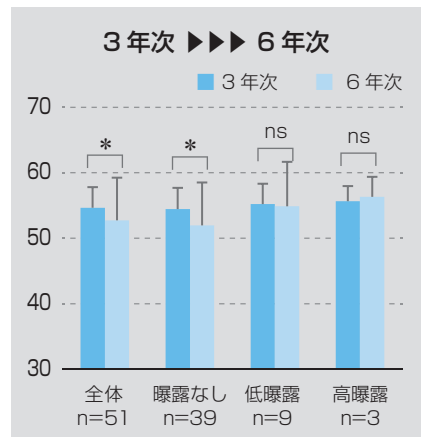
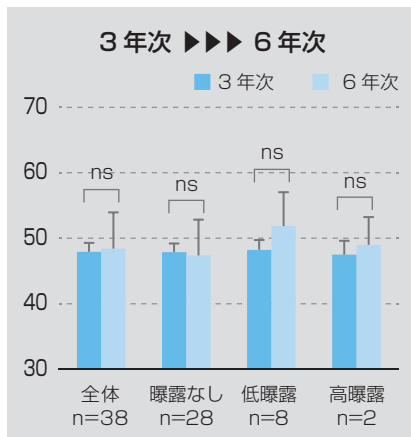
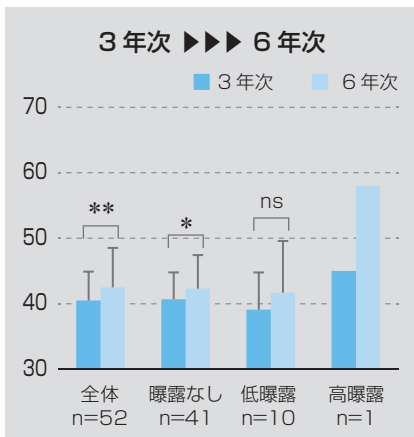
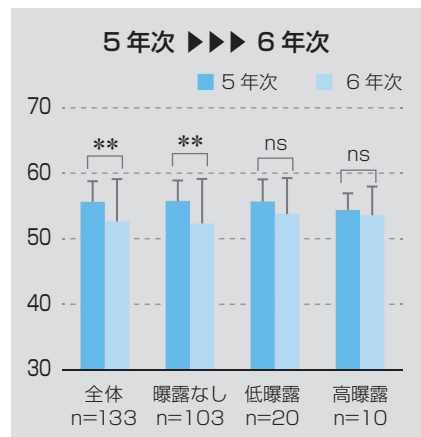
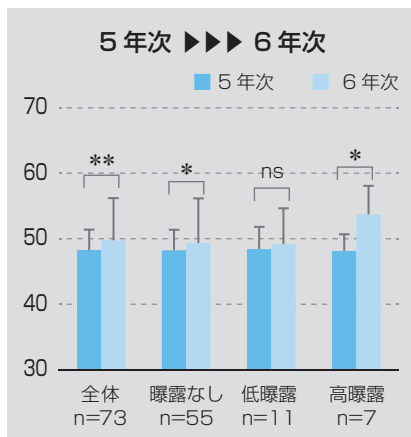
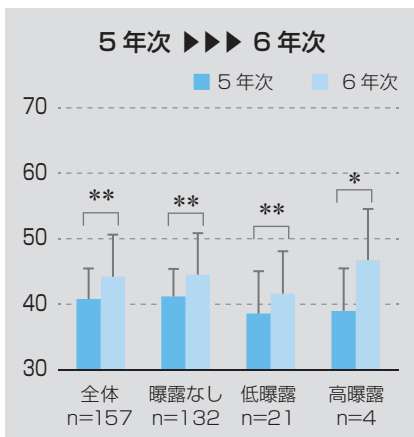
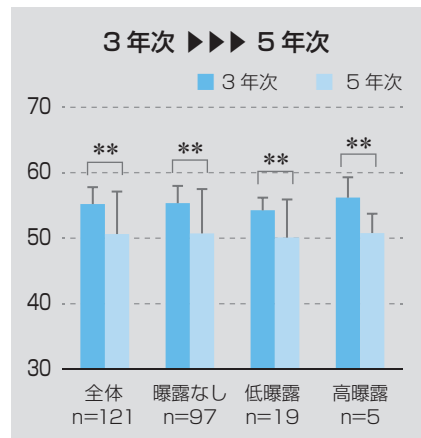
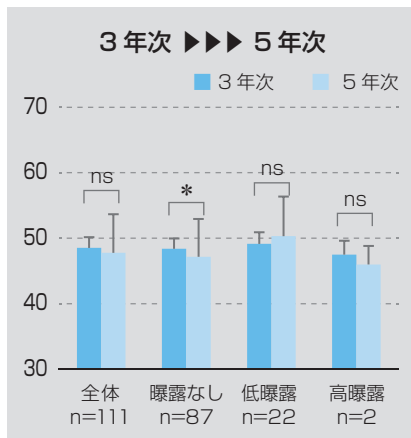
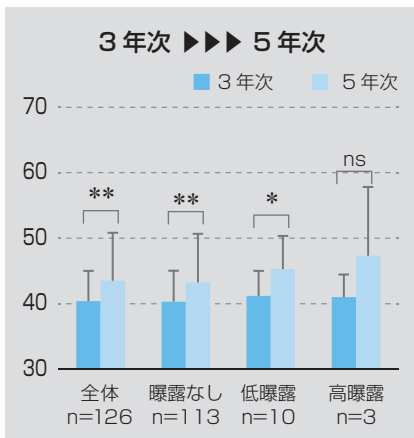
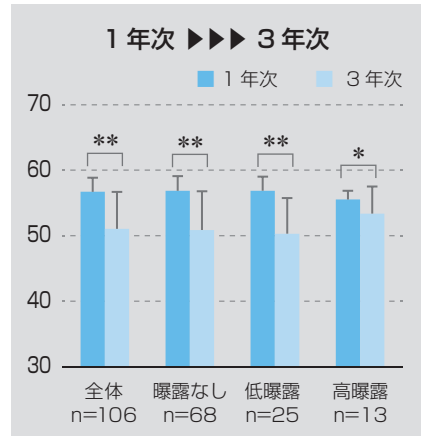
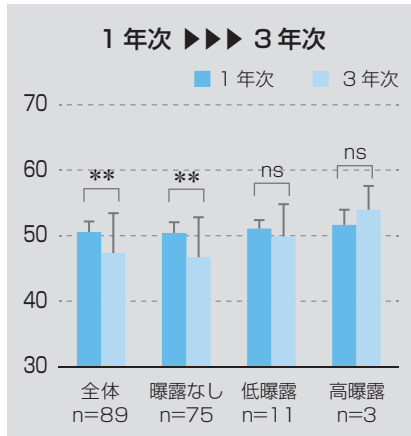
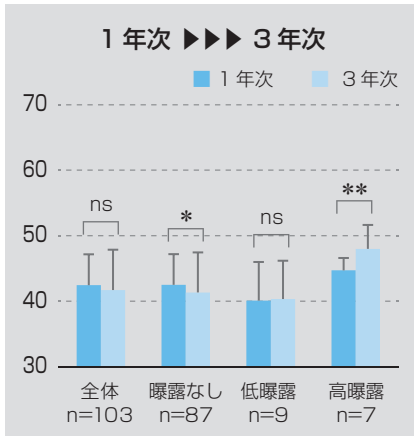


paired t-test *P<0.05 **P<0.01

低志向群

中志向群

高志向群



paired t-test *P<0.05 **P<0.01

4. 広報活動

■ ウェブサイト

黒潮医療人養成プロジェクトの3大学だけではなく、他大学、地域医療機関の従事者、行政、地域の人々にもプロジェクトを知っていただき、つながりを深めることを目的とし、令和5年2月に開設しました。Instagramとも連動し、プロジェクトでの活動の写真などを発信しています。

● アクセス

・ウェブサイト

URL : <https://kuroshio-pjt.com/>



・Instagram

ID : kuroshio_pj



● コンテンツ

- ・はじめに 黒潮医療人養成プロジェクトの概要、事業責任者のあいさつ等
- ・プログラム説明 3大学の各教育プログラムの説明
- ・e-learning 履修学生用のオンライン学習動画コンテンツ
- ・学生の声 本プロジェクトのプログラムを経験した学生と教員との座談会の様子
- ・シンポジウム 合同シンポジウムに関する告知や参加申し込み
- ・お知らせ・トピックス 更新のご案内、イベント開催の告知、事業報告書の掲載など
- ・関係者ページ 事業推進委員会、事業評価委員会の議事録など
- ・関係機関リンク 地域医療人材養成拠点病院のウェブサイトのリンク

● ウェブサイト来訪者解析

Google アナリティクス4によりウェブサイトに来訪者の動向を分析し、プロジェクトの魅力がより伝わるよう、発信内容や広報活動の向上に努めています。3月末時点で、サイトの総ユーザー数は1.1万人、総表示回数は9.8万回を記録しました。昨年の同時期と比べると総ユーザー数は約5,000人、総表示回数は2.7万回増加しており、今後も積極的な情報発信に努めます。

● 「学生の声」のページ

プロジェクトの学びの魅力や成果を、学生の体験談を通じて生き生きと伝えることを目的としています。令和7年8月に新たに座談会記事を掲載しました。三重大学附属病院大規模災害訓練（令和6年9月）にあわせておこなわれた、3大学のアクティブラーニングコース（災害救急・感染症コース）の学生と教員らによる座談会の様子を紹介しています。



● アクティブラーニング(災害救急・感染症コース) 座談会記事(一部掲載)

「防災訓練 in 三重」から、災害医療を考える ～医学生と救急科医師のクロストーク～



三重、高知、和歌山の3県は、科学的に想定される最大クラスの南海トラフ地震が発生した際の想定震度が6強以上、想定津波高は10m超と、いずれも高い災害リスクを抱えています。この共通課題に立ち向かう3大学の学生と教員が集まり、災害時の医療に今後どのように備え、向き合っていくべきか、それぞれの立場から話し合いました。



研究活動を通じて得たものは？

三重大生：能登と三重県は形や道路、南北の医療格差なども似ています。今回、実際に能登で見えてきた課題について学び、もしこのまま何もしないで南海トラフ地震が起こると同じようなことになってしまうと強く感じました。学生の段階でそれを知ることができて、すごい学びになったと思います。

また、防災訓練を体験して、学生で医療行為はできない立場ではあるけれど、災害が起こったら何か自分たちにもできることはあるだろうというのとても感じました。搬送であったり、患者さんの急変であったり、そういうことにアンテナをはっておくことは他の人よりできると思います。

まずは、緊急事態が起こったとしても何か動けるような人になる。その上で実際、医師になった時には、どのような災害が起こっても動けるように、これからも学習していきたいなと思います。

高知大生：何よりも医学生のうちから動けることがあれば動く、それが大事だと思いました。緊急事態や予期しないことが起きた時って、今の自分が動いていいのかわからないとか、誰かが動くのを待ってから動いた方がリスクや失敗がないと思って、結局動けないことが多いと思います。

そういう時に、自分が何か先陣を切って動けるような医学生でありたいし、そのような医師を目指したいなと思います。

■ Instagram

プロジェクトのイベントや体験実習の様子をInstagramに投稿し、情報発信をおこなっています。Instagramの活用により、より多くの人々や医療機関との情報共有が可能になり、交流の幅が広がりました。現在、フォロワー数は850人で、昨年度同時期より約2倍に増加しています(令和8年3月18日時点)。今後もより投稿内容を充実させ、情報発信の相乗効果を高めていく予定です。



地域から日本の医療の未来を描く！
高知大学、和歌山県立医科大学、三重大学が協働し、新時代の地域医療人材を養成します。文部科学省『ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業』黒潮医療人養成プロジェクトの公式Instagramアカウントです。

▲ 黒潮医療人養成プロジェクト Instagram アカウント



▲ Instagram 投稿記事(一部抜粋)

黒潮医療人養成プロジェクト ロゴマークについて

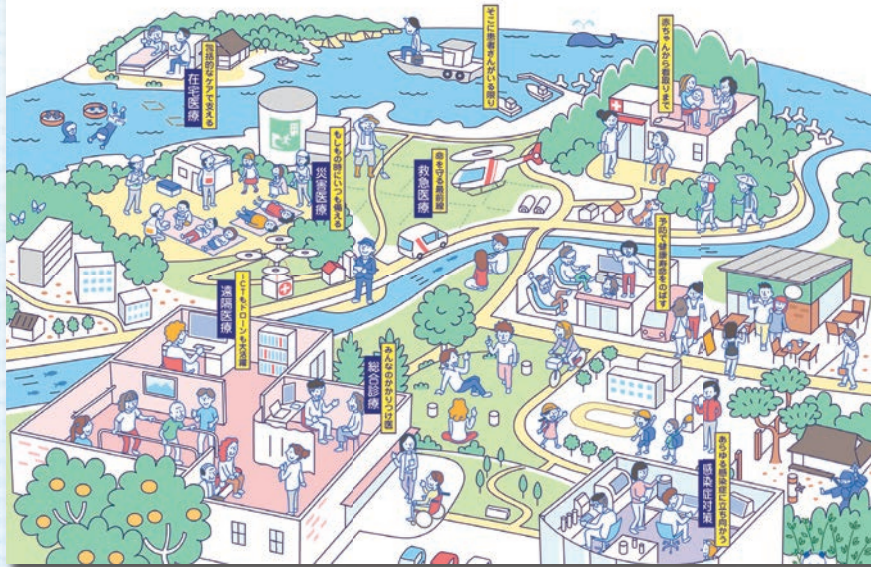


黒潮医療人養成プロジェクト

黒潮の“K”の文字を3色のブロックで表現し、黒潮の波のイメージを合わせています。

色は、和歌山県立医科大学がオレンジ、三重大学がグリーン、高知大学がブルーと各大学のイメージカラーを取り入れています。

ロゴは、白と濃紺でクリーンな医療のイメージと親しみのある印象の書体としています。



文部科学省
ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業

黒潮医療人養成プロジェクト
令和7年度 事業報告書

(令和7年4月～令和8年3月)

高知大学・和歌山県立医科大学・三重大学

事務局 高知大学医学部・病院事務部
総務企画課 地域医療支援室
TEL : 088-888-2744
E-mail : kuroshiodmp@kochi-u.ac.jp



黒潮医療人養成プロジェクト